

天
地
圖
解
辨
論

完

特37

432

056194-000-8

特37-432

天地圖解辨論

萩原 四郎 / 著

M24

CAK-0080



特 37
432

序

有一老人突如而來叩節居容貌朴茂

懷中出一冊子示余曰是叟所著之地圖

解辨作也古今事相闡明學理至極其

精而不自揣漫著今固其為館員然

鄙說亦有所見參酌之而說豈不甘小

補乎且叟多年心血之所注智之靈魚

天地圖解辨論

秋原四郎著述

神國畫星

天地圖解辨論

堅研堂藏版

復亦所不恐也將印刷以移家語第一言余
謂今也西學大行不問事之長短不問物之得
失生心醉其說而學獨教然不顧其可謂
風鳴朝陽也余不學野固不能去其說之可
否亦亦其志之所存一言辨其首

明治辛卯一月

松本多田省徳



賢愚得失を一にふくむべきは教導の歎きあ
るか否學ひて導かざれば徳功渺なく蘊めて
あたへべきは聞くのみと能はず預りて其理を
務む時は我理と齋へるに至る夫天地は萬物
の父母にして産るる處のもの各分量あり人
は萬物と使用爲るともて即ち長と云然りと
以へとも天地の性體を知ることあたはず故
に舊今兩説するは孰れも道理の粗まると云
のみ譏講紛絮にして其術世にあきらかなら

す天地の道理に於いて一毛のたかひあると云ふとあき亦陰陽の道を解譯するは人の計る處にして天地より告るものにあらず故に正不あり假令は十をもて六七の理有れば是を可なりとす十を十として理あれば即ち正なり四五をもて不なり天地の理譯を倣ひて分明あらざるは畢竟究理の迨はざる處あり方今陰陽の移轉を輯録して著處す乃術異同ありて世人倍す疑惑を懷き孰れか虚偶妄説

たるよとを徹要するよとあたはず是も察るに彼には一は至理明確といへとも一は紛訛い是には一は朦昧にして一は正理ありと云區々にいて一定あらを其過ちを問はされは答るに道ふい不可の補獎なきは何ともて理とせんや希は幼重の理論を詰るの楷梯とし往々其術と共に熟擢いて強ち一説に止ること勿れ世に智識を求るは啻目今の理を云て遠大の正理を云されは小理をもて大理と暗

陷するは人乃智意を止るに似り人は草木の
成長するに等し小は大到り狭きは廣きに
向ひ一は二へ上り近きは遠きを計り少きは
多きを寄り屈は伸んとし萬物共己れを達
んとするは各生物に依りてあり人は味きを
明かすると要と志す苟も辨論を攀るの協
譯なれば雷致辯を得るの便あらんこと杞欲
のみ

萩原四郎識

凡發

爰ニ陰陽ノ移轉ヲ鑿察スルニ予三十年間寒暑ヲ厭ハス四
季共ニ日夜晴天ヲ拜シテ日月ハ素ヨリ衆星ヲ觀索シテ北
辰ヲ日中ニ拜シ其移轉ナキヲ觀テ衆星ノ游動スルニヨリ
其如何ヲ計リ以テ北辰ト云フヲ大世界ニ異名ナキニ假令
テ云フ時ハ南世界ノ人ハ此辰ヲ方ノ北ニシテ云フ説ナレ
共彼ノ辰ハ全ク大地ノ中央ノ水面へ太陽ノ光暉ヲ移リ亦
大虚ノ中央天ノ凝冷空氣ニ水面ノ暉キヲ受テ月星トナル
事ヲ悟リ其大概ヲ述ントシ然ルト雖モ方今西洋人ノ説ニ
大地ハ座ヲニスルモノニアラス虚ニ暉ク星ノ如クノ地球
アリテ一晝夜ヲシテ巡轉シ漸ク六大洲ヲ以テ一地球ト云

フ説ニヨリ倍ス月星ノ移轉ト地球ト云フ理由ヲ比較シテ
月星ノ游動スルニ符セサルヲ以テ第一北星ヲ原トシテ東
西南北方圓ノ説ヲシテ南北ハ赤道ニアル事ヲ左ニ舉ルモ
ノナリ

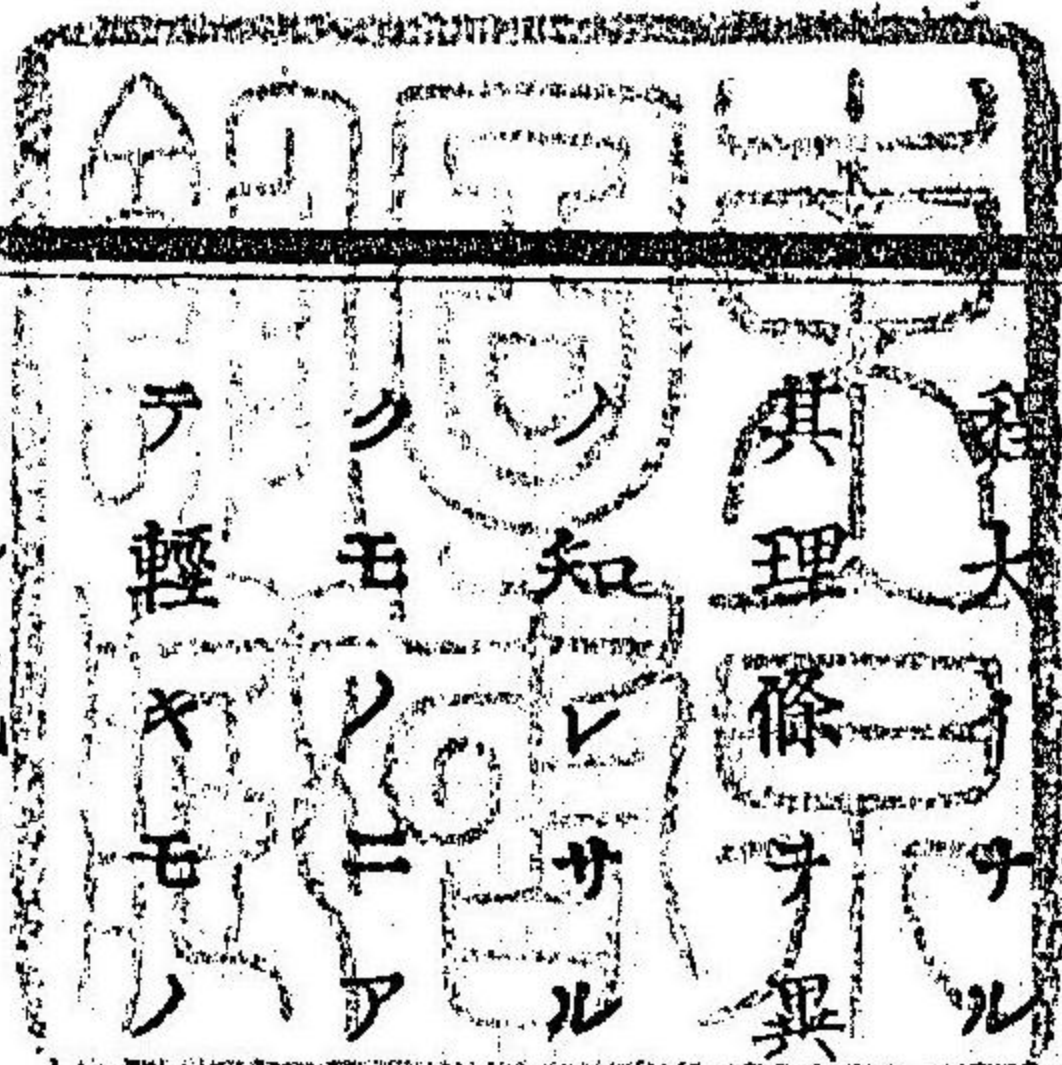
天地ノ辨
中央星ノ辨
太陽ノ辨
太陽巡行ノ辨
地球圖解
地球高底ノ辨
太衍海ノ辨
磁石方圓圖解辨
過船ノ辨
水路ノ辨
星觀圖解辨
天地圖解
四季圖解辨

潮汐圖解辨
 陰陽性氣ノ辨
 月ノ圖解辨
 日塞月塞圖解辨
 風ノ辨
 地震圖解辨
 霓圖解辨
 御輦圖解辨
 辰星圖解辨
 彗星ノ圖解辨
 燐星圖解辨
 氣息ノ辨
 降雨ノ辨

天地圖解辨論

天地ノ辨

備テ世ノ中ニ何カ大イナル違ヒアルト云フニ天地ノ論說
 其理條ヲ異ルハ各目的ノ譬辭ヲ云フ而已天地ノ性體ハ人
 ノ知レサルヲ萬理ニ照準シテ云ハ、太陽ハ大虚ヘ拘リ繫
 クモノニアラス則チ燃ル火ニシテ其性酷々熾ンナリ亦至
 テ輕キモノユエニ逆モ座ヲニスルモノニアラス常ニ上騰
 スル氣アリ亦大地ハ土ニシテ酷々重キユエニ靜リ居性ニ
 シテ動揺スル事アタハス火ハ上ニ登ル性カアリ土ハ下ニ
 壓ルノ性氣ナリ亦大地ヨリ大虚ヘ立登リタル空氣ハ卵ヲ



登ニシタル胸中ノ如シ大虚ハ爽メテ中虚ハ脹レタル形ヲ
 ニシテ正ノ天上ノ中央ハ空氣ヲ押シ壓シテ假令ハ浮亂酒
 壺ヲ逆向ニシテ觀ル如シ天ト中横トノ角ハ腎穴ノ如シ亦
 空氣ハ陰氣ニシテ影形ヲノナキモノナレ共假令ハ水中ノ
 如シ毎ニ閉塞キタルモノナリ其天ト中横トノ角ヲ太陽ハ
 巡市シテ在ルモノナリユエニ空氣ノ分チ三色ノ説アリ地
 ニ近キ空氣ヲ游動空氣トシ中空ノ太陽ノ巡市スル處ノ空
 氣ヲ止靜空氣トシ大虚ノ霧ノ如クナル空氣ヲ凝冷空氣ト
 シ風ハ游動空氣ノ中ヲ走動シ太陽ハ止靜空氣ノ中ヲ巡市
 シ水ハ土ニ載ル風ハ水ニ載ルモノニシテ土而已ハ萬物ヲ
 常ニ載テ居モノナリ亦火ハ限リナキ大虚へ上リ果サマル

ハ彼ノ凝冷空氣ト云フ霧ノ如クナル空氣アルユエニ是カ
 爲ニ此空氣ヲ貫キ上ル事ヲセズ止靜空氣ノ中ヲ巡市スル
 モノナリ亦大地ハ座ヲニシテ太陽ノ巡市スルト云フ理由
 ハ左ニ圖解ヲ設ケテ述ル如シ支那地ヨリ已日本ニ至ル迄
 ハ大虚ニアル子ノ辰トモ亦北辰北極星トモ云フ星アリ他
 ノ星ハ常ニ游行スルヲ觀テ此北辰而已ハ常ニ座ニシテ居
 ルモノナリ亦地球トシテ巡環スル時ハ此星ヲ北ニ觀ルト
 ナレハ此時ニ當テ日中ハ北面ニ巡リ居道理ナリ左スレハ
 此北辰ヲ午前五時頃ハ西ニ觀ル午后七時頃ハ東ニ觀ル道
 理ナリ地球トシテ北辰ヲ地ニ連テ巡環スルモノナレハ他
 ノ星ノ游行スルヲ觀ル事ナシ北辰ト云フハ大地ノ南部分

ニ居人ノ云フ處ニシテ此星ハ大地ノ中央ノ水ノ影ナレハ赤道以内ノ北晨トナル南ハ赤道ニアリ北ハ中央ニアリ東西南北ハ方トシテ有事ヲ左ニ述ルヲ錯領アルヘシ

中央晨ノ辨

中央晨ヲ以テ巳日本支那地ニ於テハ北晨亦ハ北極星子ノ晨トモ唱ヘテアリ北晨ハ中央天ニシテ座ラニスルモノナリ亦北晨ヲ正中ニシテ三點ノ星ハ三角ノ形ヲニアリテ春分ハ午后八時頃ハ一點ノ星ハ東北ニアリ左右ノ星ハ西南ニアリ午前五時頃ハ一點ノ星ハ西南ニアリ左右ノ星ハ東北ニアリ夏分ハ午后八時頃ハ一點ノ星ハ南ニアリ左右ノ星ハ北ニアリ午前五時頃ハ一點ノ星ハ北ニアリ左右ノ星

ハ南ニアリ秋分ハ午后八時頃ハ一點ノ星ハ西ニアリ左右ノ星ハ東北ニアリ午前五時頃ハ一點ノ星ハ東北ニアリ左右ノ星ハ西南ニアリ冬分ハ午後八時頃ハ一點ノ星ハ北ニアリ左右ノ星ハ南ニアリ午前五時頃ハ一點ノ星ハ西南ニアリ左右ノ星ハ東北ニアリ四季共ニ一晝夜ニシテ中央晨ヲ正中ニ置各星共ニ游動スルモノナリ亦南幽冥天北幽冥天ノ星共ニ中央晨ヲ正中ニ置各一晝夜ニシテ一巡轉スルモノナリ亦中央晨ヲ衛護シタル三點ノ星ハ其間僅巳午ニ仮令テ三十尺位ニテ一晝夜ニシテ一巡轉シ亦東西南北ノ幽冥天ノ各星共ニ中央晨ヲ正中ニシテ一晝夜ヲ巡轉シ各星共ニ其時間ヲ違ヘスシテ游行スルハ何等ノ理ニ從リテ

右ノ如クモノナルヤ全ク太陽ノ巡市ニ從ヒ各星共ニ同心
環ヲシテ游行スルモノナリ亦星ニ金銀水ノ三色アリ大ナ
ル星ハ太陽ノ炎暉烈シキユエニ金色トナリ中ナル星ハ炎
暉衰ヘテ銀色トナリ小ナル星ハ炎暉漸トシテ水色トナリ
世ニ木火土金水ヲ以テ星ト唱ヘルアリ木金土ノ星ハ空天
ニ暉クト云フ事ナキ都テ星ハ水火ノ性ニシテ世ニ木火土
金水ノ星ヲ地方ヘ配局シテ吉凶ヲ示スハ彼ノ陰陽方位家
ノ説ナリ亦太陽西幽冥天ニ没シテ午后六時頃ハ西北ヘ巡
市シ其炎暉ノミヲ南空天ニタエサルヲ以テ南世界ノ人ハ
是ヲ星アカリトシ太陽ノ光暉ノ足ヲ觀サルニ其光暉ヲ以
テ月星ヲ生ルト云フハ空論ニ思ヘルト雖モ仮令ハ居家ニ

上下ノ二敷アリ其間仕切ノ隔テ二戸ヲ断切テ上ノ間ニ燈
火ヲ置下ノ間ハ暗シト雖モ鴨居ノ上ノ透間ヨリ燈火ノ暉
キ天井ニ移リ鴨居ヨリ下ハ暗夜ノ如シ此時ニシテ二面ノ
鏡ヲ持テ一面ハ天井裏ニ付置亦一面ハ敷上ニ仰ムケテ是
ヲ合セ觀レハ下ナル鏡ノ影ハ天井裏ノ鏡ニ移ルモノナリ
ユエニ暗夜ニシテ水面ノ影ヲ空天ニ移ルユエニ月星ハ太
陽ノ光暉ヲ南空天ニ充滿寓リアルヲ以テ地上ノ水影ヲ空
天ニ暉キ移リテ月星トナル事ヲ推テ知ルベシ

太陽ノ辨

太陽ハ秋冬ハ南空ニ寄テ巡市スルハ大虛ノ凝冷空氣秋ハ
西ト坤ニ退グユエナリ亦太陽ノ巡市スル里程ハ計リ難ケ

レ共大凡壹分間ニシテ三千里發走スル積リニシテ一晝夜
廿四時間四百三十二万里ノ赤道トナル此互リ百三十六万
五千百廿里是ヲ地球トシテ一晝夜ニ巡環セハ此地球周圍
四百三十二万里トナル是ヲ以テ地球ノ周圍十二万里トシ
テ巡環トセハ一晝夜ニシテ三十六度ノ巡環トナル道理ナ
リ是ヲ壹一度ノ巡環スルト雖モ地上ニ風ヲ生ル事宛モ暴
風ノ如シ孰レモ動搖ナスモノニ風ノアラサルト云フ事ナ
キ然ル時ハ地上ニ生ル處ノ萬物其生ヲ保ツ事アタハス然
ルト雖モ是ヲ互平ノ地球トスル時ハ地上ノ高底アルヲ以
テ風モ等シカラサレハ萬物其生ヲ保ツ事アリ假令ハ地球
ノ巡環スルニ空氣ヲ連テ居ト云フ乎若シ是ヲ地球ニ連テ

巡環セハ空中ヲ翼スル諸鳥ハ其羽ヲ自由スル事アタハス
地震ノアル時諸鳥ノ座ヲ落ルハ空氣ヲ地上ニ連テ動搖ス
ルヲ以テナリ地球ト云フハ玉ノ如クナルヲ以テナリ是ニ
空氣ヲ連ルト云フハ細網ヲ持テ玉ヲ縈ルカ如シ地球ニ空
氣ヲ連ルモノナレハ日中ハ東風ニ限り夜中ハ西風ニ定リ
アル道理ニハアラスヤ地球ト空氣ト離レタルヲ以テ諸鳥
ハ空中ヲ渦線舞ナスル事替クシテ居モノナリ亦上火杯ハ
凡十丁位ハ高空へ上ルモノナリ或ハ散火袋火トシテ地上
ニ落ル時間ハ凡二十抄間アリ然ル時ハ地球ノ巡轉ハ十二
萬里ノ地球ハ二十七里二十八丁前ニ進ミ亦壹萬貳千里ノ
地球ハ二里二十八丁前ニ進ミ亦上火ハ此里程ヲ後レテ地

上へ落ル道理ニハアラスヤ是ヲ原上ル地方ニ落ルハ地球ノ巡轉スルニ符セサルヲ知ルヘシ

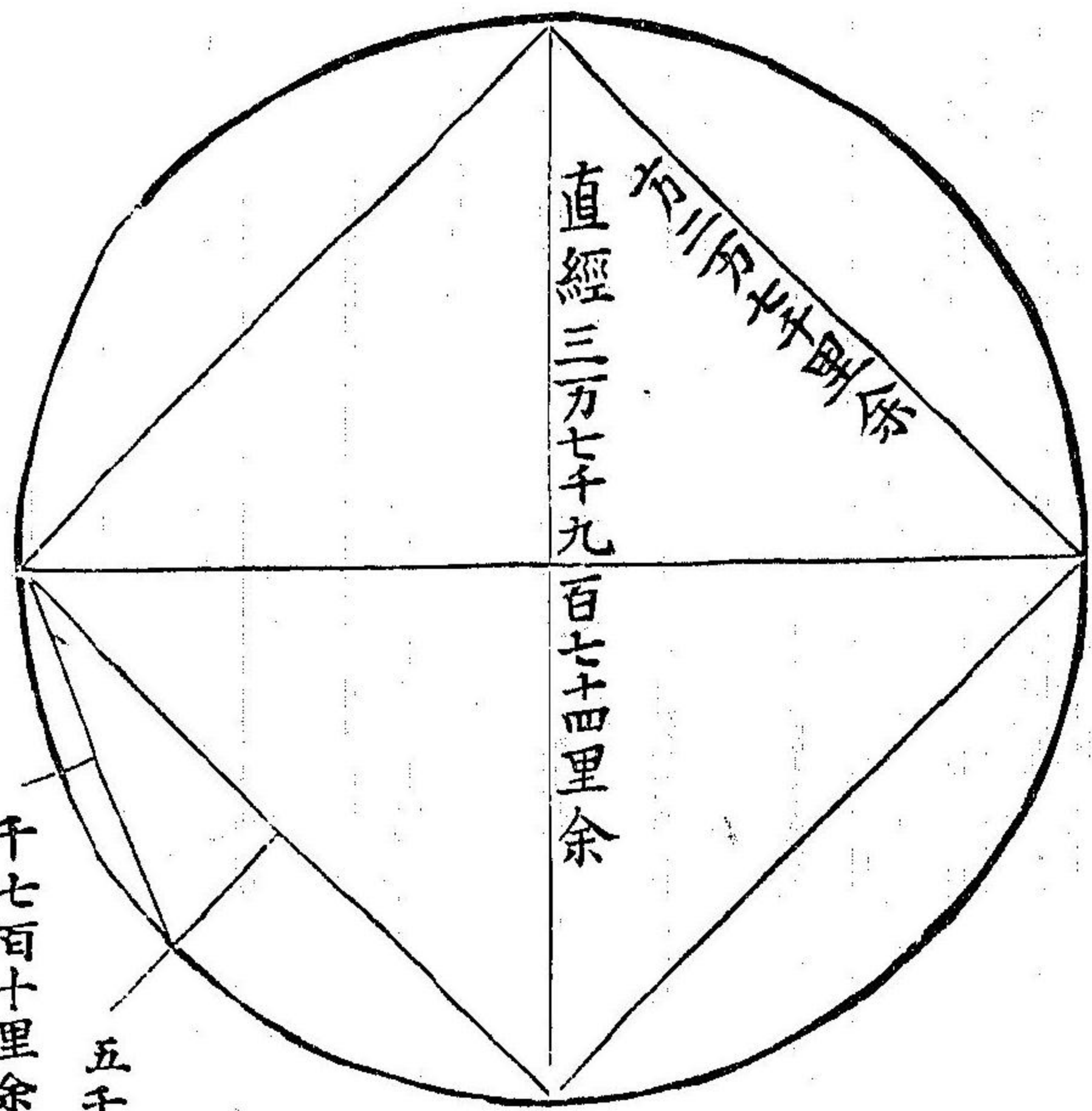
太陽巡市ノ辨

太陽ノ西へ没ルハ地球トセハ右指シニ巡リ東北ヨリ西南へ巡リ居ル道理ナルヲ月星共ニ西ヨリ顯レ出テ東へ游行スル理ハアレ共地球トシテ巡轉スル時星ニアリテハ夜分ナレハ東ヨリ西へ游行スル理ハアレ共朝ノ太陽ニシテハ西ヨリ出テ東へ没ル道理ニハアラスヤ天性ヲ現覽テ其理ヲ務メテ勦スヘシ亦赤道ハ輪ノ縁ヲ市ル如シ是ヲ計リ試ルニハ春分ニ至リ東西ノ山ト山ノ谷相ニシテ已居處へ磁石ヲ立其日ニシテ東ノ山際ノ太陽ノ出ル方ヲ定メ亦西ノ

入没ノ山際ヲ見定メ而テ后已カ上空ノ太陽ハ午ノ中空ニアリ出沒ノ地ハ東ハ甲ニ上ル西ハ辛ニ下ル僅三十丁若シクハ五十丁ノ溪谷ニシテ余程ノ曲リアルヲ知ルヘシ

地底高底量解

周圍拾二万里トシテ凡分量



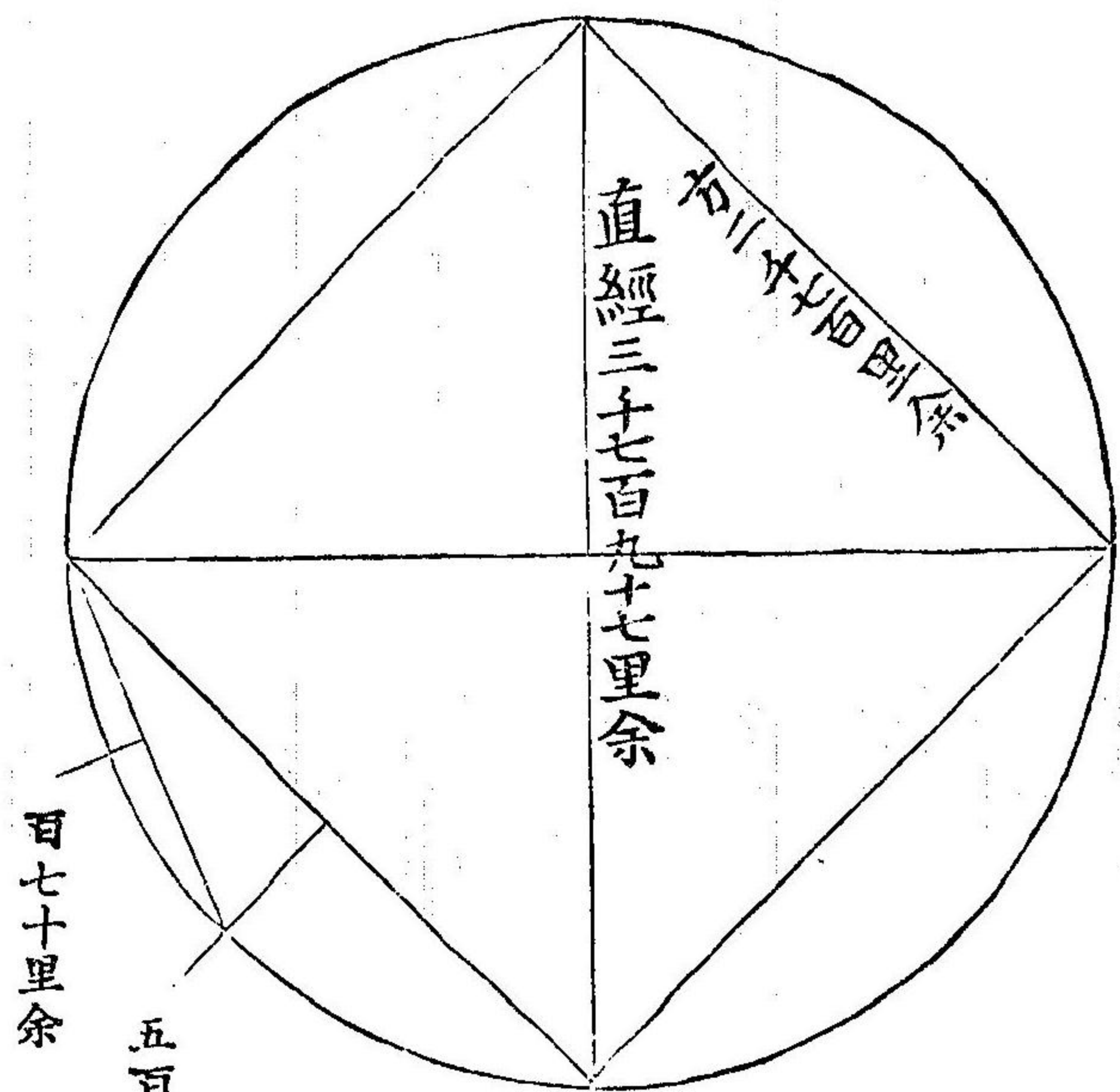
道路高底

三万里	高凡五千七百七十里余
九百三十七里	同 十三里三十丁
十八丁	同 三十八間余
十四里廿三丁	同 四間三合余
二十間余	同 二間九合余
拾里	同 三十八分
壹里	同

地球ノ圖

地球高底量解

周圍壹万二千里トシテ凡分量



道路高底

三千里	高凡五千七百七十里
九十三里	同 壹里十三丁
廿七丁	同 五十間八合
拾壹里廿五丁	同 廿二間四合六夕
廿二間五合四夕	同
拾里	同 十九間壹合六夕
壹里	同 二尺四寸九分
	六厘

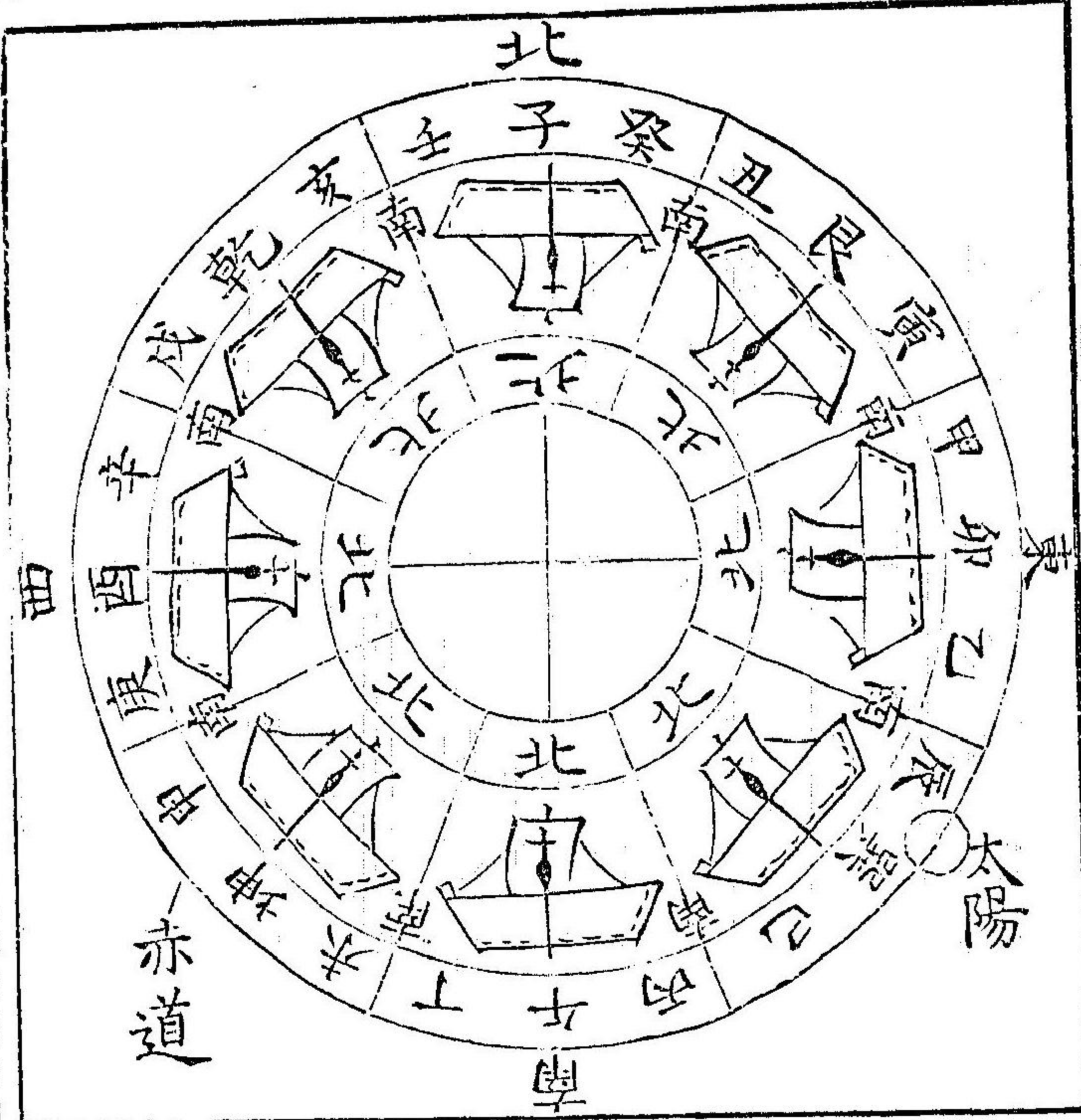
地球高底ノ辨

地球ノ形ヲ橙子ノ如クトアリ圓キモノハ何程大イナル里程ノアルモノニテモ圓キモノ、其高底ヲ計ルニハ假令ハ拾二万里ノ地球周圍トシテ此互リ半額壹万八千九百八拾七里余亦此周圍ノ四ノ一三万里此高底五千七百里余ノ高サアリ是ヲ小細シテ云フ時ハ拾里ノ道路へ二間九合余ノ高サアリ亦一万二千里ノ周圍トシテ三千里ノ道路へ五百七拾里ノ高サアリ一里ノ處へ二尺四寸九分六厘ノ高サアリ九拾三里二拾七丁ノ處へ一里拾三丁五拾一間八合余ノ高サアリ余ハ算勘ニ從リテ知ルベシ

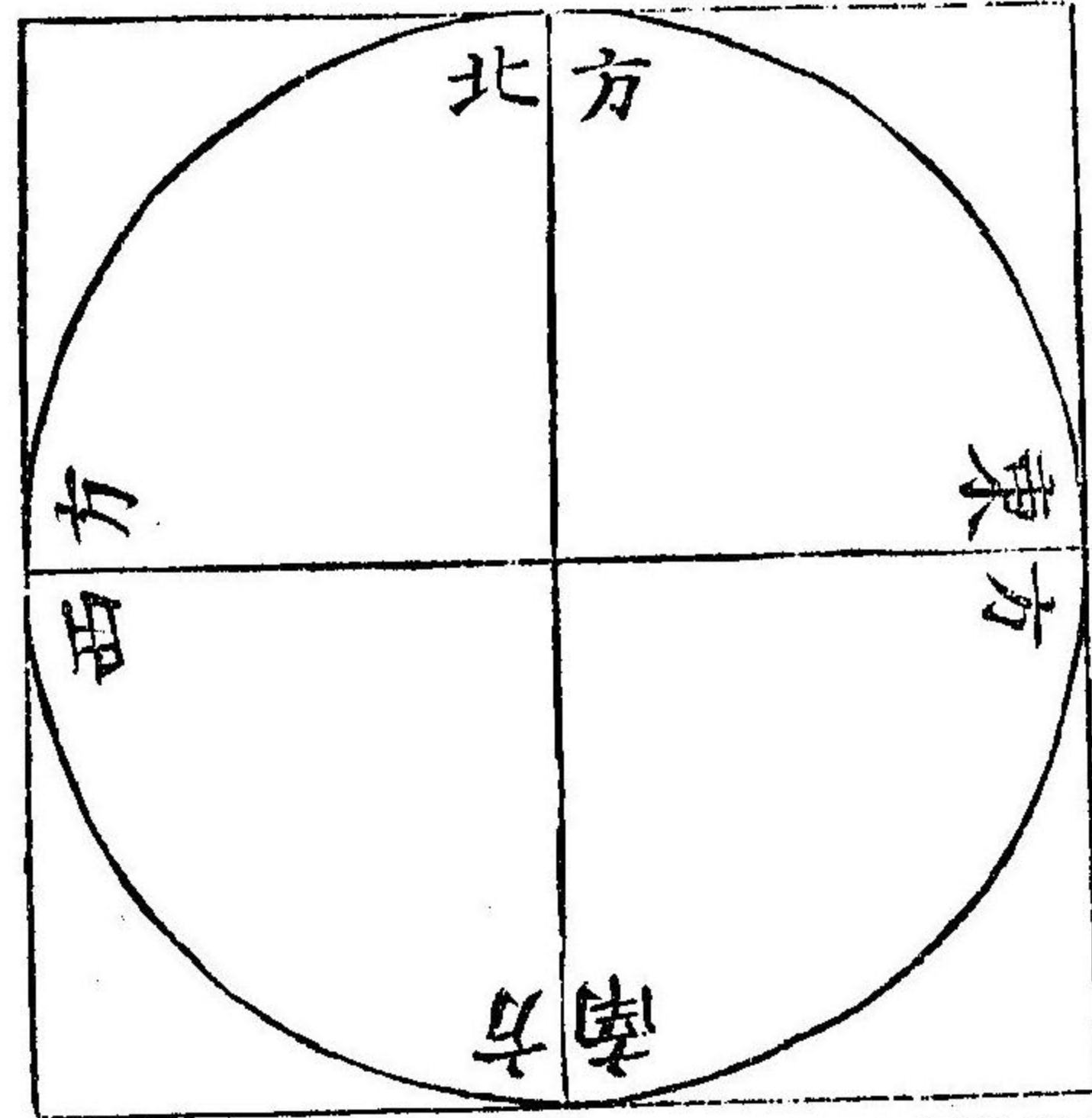
太行海ノ辨

地球ト云フハ玉ノ如クナルヲ以テナリ大地ヲ座ラニシテハ則チ大地ナリ亦大地ハ太行海ノ大外ヲシテ甚ダ廣シ亦太行海ヨリ中内一孤地——ニシテ其中ニ大小ノ海アリ亦太行海ノ大外ニモ大小ノ海アリ亦太行海ノ中ニモ一孤地——ニシテ其中ニ大小ノ海アリテ虛ニ暉ク星ノ如シ亦月影ノ中ニ色マトシテ山ノ如ク雲ノ如ク觀エルモノアリ是ハ太行海ノ中ニ多分ノ地面アルヲ以テ一面鏡ノ如ク見ル事ナキ然ルト雖モ月ハ内大地ノ大外ヲシテ外法ニ廣キ大海ナレハ其大海ノ中ニ一孤地——ノアル事仮令ハ池ノ中ニ秋ノ木ノ葉ノ浮メル如シ然ルト雖モ月ハ其太行海ヲ一面ニシテ虛へ移ルユエニ其形ヲ酷ク大イナリ

磁石圖



方圓圖



十 磁石針
 赤道四百三十二万里
 直徑百三十六万五千廿里
 一窠五十四万里

方圓ノ辨

世ニ東西南北前後左右ト云フハ其地方——ニシテ異名在
 ルモノナルヲ人ノ已レテ住居スル處ヲ礎トシ已レノミノ
 方角ヲサス如クシテ磁石ノ針ノ北ヲ望ムヲ知テ其理ヲ知
 ラザレハ世界ハ十ノ字ノ如ク方ナルモノナレ共磁石ノ針
 ノ北ヲ望ムハ亦別ノ理アルヲ知ヘシ東西南北ハ方ナルヲ
 以テナリ亦世四方位ハ圓キニ形下リ磁石ノ針ハ其前キヲ
 北ニナスモノナリ上ノ圖ノ如シ中央ハ陰地ニシテ都テノ
 北トナリ赤道ハ都テノ南トナリ磁石ノ針ヲ北ニ向ケルハ
 中央ハ太陽ニ遙ニ隔テ、寒涼ノ地タルヲ以テ針ハ是ガ爲
 ニ中央ノ陰地ヲ前キトスルモノナリナントナレハ磁石ハ

冷物タルヲ以テ鍊ヲ望ミ鍊ハ第一等ノ冷物ニシテ亦酸味
 第一等ノ性氣ナルユエニ磁石ハ鍊ヲ吸寄ル性カアリ鍊ハ
 磁力ヲ慕フノ氣アリユエニ其前キチ冷地ニ向ケルモノナ
 リ赤道以内ハ赤道以内ノ南トナリ中央ノ地ハ赤道以内ノ
 北トナリ人ノ太陽ニ向ヒ已レノ影ヲ斜メナラサル時ヲ正
 午トシ此時ヲ已カ南トシ亦中央ハ真ノ北トナル午前十二
 時ト云フハ太陽ノ巡市ヲ十八万里ツマナリテシ赤道四百
 三十二万里トシテ環輪僅壹尺ノ中ニ曲リアリ此曲リアル
 處ヲ已カ南トシ則チ正午ナリ亦赤道ノ直經百三十六万五
 千百廿里トナリ亦太陽ノ互リ凡三万里トシテ赤道ヨリ左
 右凡百廿万里ノ間々ハ温暖アルモノナレハ赤道以内兩向

ヒニシテ百廿万里ノ中ハ温暖アリ左スレハ十六万五千百
 廿里ノ中ハ都テ北幽冥界ト云フ如シ赤道ヨリ南外モ南幽
 冥界ト云フ如シ亦左右ト云フハ赤道ヲ已カ前トシテ云フ
 時ハ方ノ南ハ東ヲ左トシ西ヲ右トシ何レノ赤道ニ向ノ人
 モ如是然レハ方ノ北赤道ニ向フ人ハ西ヲ左トシ東ヲ右ト
 シ亦世界ノ前後ト云フモ赤道ヲ前トシ中央ヲ後トシ仮令
 ハ赤道以内ノ東西南北ハ引粉白ノ下白ノ正中ノ真棒ハ赤
 道直下地ノ中央トナリ上白ノ正中ノ穴ハ中央辰トナリ故
 ニ磁石ノ針ヲ北へ其前キチナスハ上白ノ正中ノ穴ヲ北ト
 シテ巡ル如クナルモノナリ

過船ノ辨

方ノ南赤道以内ノ人ノ渡船ニシテ己カ國ヨリ四十万里計
 リ西ノ方へ乗出ントシ磁石ノ針ヲ北トシテ運輸スル時中
 央星ヲ方ノ北トスルヲ以テ五六万里ニシテ方ノ西ト思へ
 ル此時ハ方ノ西北ハ過リ初メ十万里ニシテ方ノ西北ノ部
 十五万里ニシテ方ノ北ノ部二十万里ニシテ方ノ北東ノ部
 廿五万里ニシテ方ノ東ノ部三十万里ニシテ方ノ東南ノ部
 三十五万里ニシテ方ノ南ノ部四十万里ニシテ原ノ南西ノ
 部へ戻ルユエニ地球ト云フ一孤地ノ巡轉スルト思ヘルハ
 尤ノ事ナリ亦赤道ハ直經百三十六万五千百廿里ノ互リト
 シ赤道ヨリ中内六十万里中ニ寄八百廿万里ヲ除ク此環輪
 五十二万千七百七十七里余トナル兎角中央地ニ近ク寄レ

ハ環輪里程ヲ減シ己カ國ヨリ西ヲ方圖ナシ西ノ方へ乗出
 ントスル時ハ赤道直下迄ハ針ノ前キヲ船ノ艦ノ方へ向ケ
 亦赤道直下ヲ逾ヘテ赤道外ノ冷地ニ至レハ針ノ前キヲ船
 ノ方へ向ケル時ハ幾百万里ノ八方へ出テ針ハ八方ノ冷地
 ニ望ムモノナリ故ニ西向キトシテ東ヨリ已レノ國へ戻ル
 事ヲ察スベシ

水路ノ辨

大地ノ水路ハ弓弦ノ如シ地ハ弓ニシテ水ハ弦ノ如シ萬物
 ニ真直ナルモノハ水ニ迫フモノナシ水ヲ引カアリテ地球
 ニ離レスシテ居ユエニ水ハ地球ノ巡環ニ隨ヒアルヲ以テ
 水モ地球ノ如ク上部ヲ曲ケテ居ト云フハ率竟ハ地球ト云

フナ以テナリ水ハ陰カニ引止ノラレタルモノトセサレハ
理ニ當ラヌユエニ如是解譯セシモノナリ水ハ真直ナル第
一等ノモノナレ共海中ハ溜池ノ如クニセス潮汐ノ満干ニ
ヨリテ動搖ヲナシ水ノ動キニ隨ヒ地底ノ高底ニ從ヘルヲ
以テ潮汐ノ高底ヲ生ルモノナリ然ルト雖モ水ヲ器ニ溜ル
時ハ其水靜ニ治リタルヲ以テ水ハ方圓ノ器ニ隨フト云フ
理アリ亦潮汐ハ活物ニシテ山ヲナシ動搖ヲ劇シクスルヲ
以テ地底ノ高底ニ彈キシテ水面ニ高底ヲナスモノナリ已
日本隱岐出雲ノ海路ハ和波ニシテ七八尺位ノ波アリ漸風
ノ時ニシテ凡十尺位ノ濤アリマシテ大洋ノ如キハ中風ニ
シテ十四五尺余ノ大濤アリ都テ海上ハ波濤ノ渦高ク上ル

ヲ觀テ水面ノ溶リアル事ヲ人ノ云ハサルモノ乎大洋ノ溶
リハ海路壹里ノ中ニシテ廿四五尺位ノ高サノ溶リアリ船
人ノ眼ニ見ル時ハ立波ノ上ニ居テハ波ト濤ノ上ニ浮動
トトシテハ二三十尺位ノ濤モ五六尺位ニ見エルモノナリ
水面ノ溶リヲ知ラサレハナリ故ニ三四里前後ノ船ノ橋ヲ
觀テ船ノ近寄ルニ隨ヒテ其船ノ水際ヲ觀ルト云フ説ハ全
ク地球ノ圓キニ水ノ隨ヒ引カテ以テ其水ヲ地上ニ止メル
ト云フ説アリ引カハ地性ノ陰カモアリ陰ハ土性ニシテ萬
物ヲ引止メル性カアレ共底中ニハ水氣アリテ吸カテ亦
地上ニシテハ陽カアリテ空中ニ引上ル性カアリユエニ草
木雲霧ハ眼前ニ上騰スル如シ萬物共ニ已レノ頭ヲ空へ上

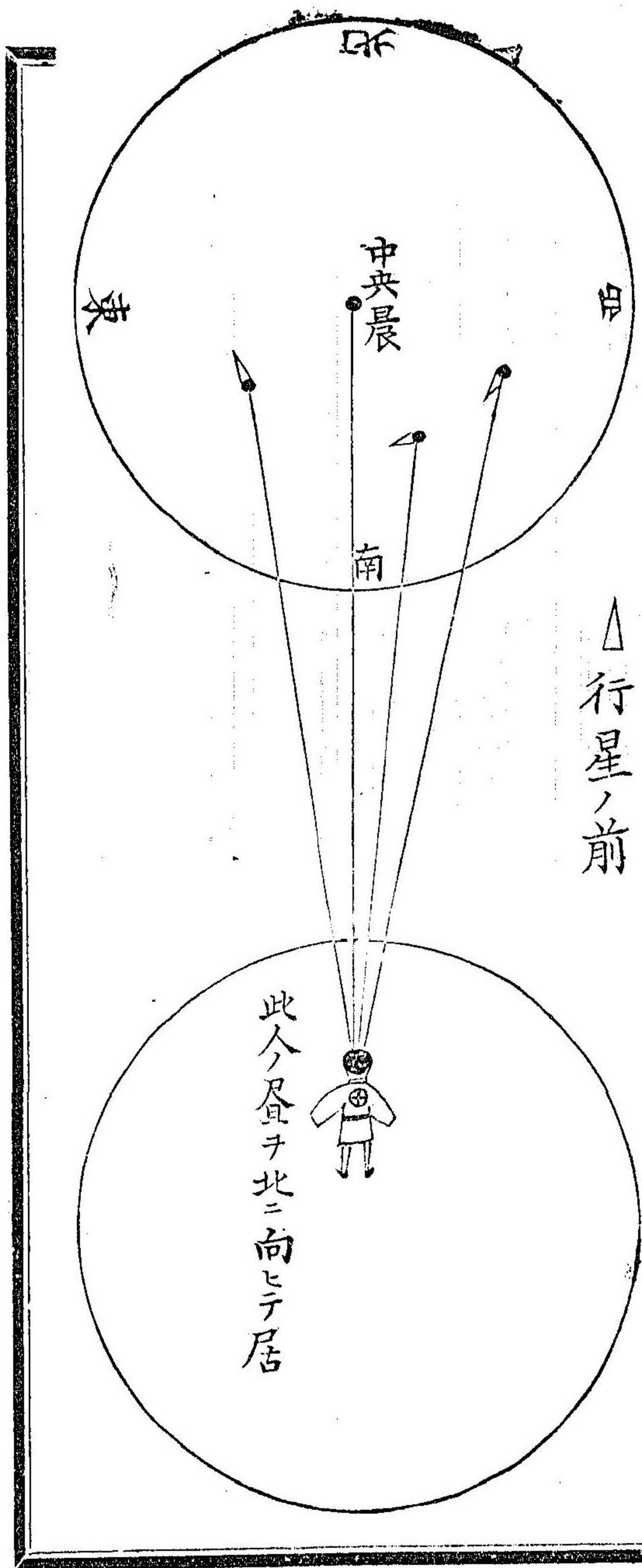
ルハ陽力ノ造ホス處ナリ亦水ハ噴吐スルノ性カアリテ吸
入ル事ナキモノナリ

星觀圖解

大虛圖

△行星ノ前

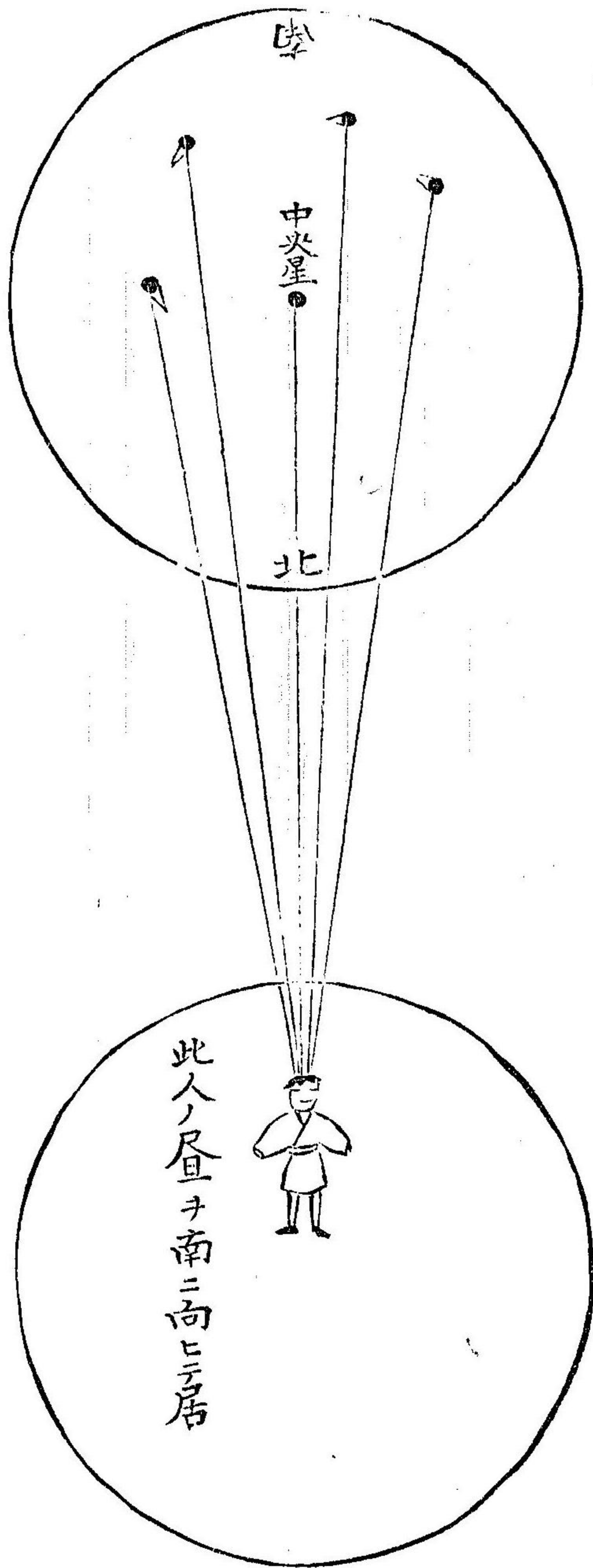
地球圖



星觀ノ辨

地球トシテ太陽西へ没ルハ則チ右指シニ巡轉スルニアリ
 人ノ已レノ晝ヲ南部分ノ人ニシテ已レハ北ニ向ヒテ居ト
 シテ已レノ國ヲ午后八時ヨリ十時頃ハ東北ノ部ヲ巡轉シ
 此時上ノ圖ノ如シ地球ニ居人ハ東北ヨリ西南ニ向ヒテ居
 ナリ亦南虛ノ星ハ東へ游行シ東虛ノ星ハ南へ游行シ北虛
 ノ星ハ已レノ上虛ニ來ル亦十一時ヨリ午前一時頃ハ北ノ
 部ニアリ此時南虛ノ星ハ東へ游行シ東虛ノ星ハ南へ游行
 シ西虛ノ星ハ已レノ上虛ニ來ル二時ヨリ四時頃ハ北西ノ
 部ニアリ此時西南虛ノ星ハ已レノ上虛ニ來ル東虛ノ星ハ
 北へ游行シ午前五時ヨリ七時頃ハ西ノ部ニアリ此時南虛

ノ星ハ已レノ上虚ニ来ル東虚ノ星ハ北へ游行スル道理ニ
 ハアラスマヤ是ヲ地球ノ左指シニ巡轉セハ午后六七時頃ハ
 東虚ノ星ハ南へ游行シ西北ノ星ハ南へ游行シ午前四五時
 頃ハ東ノ部ニアリ南東ノ星ハ北へ游行シ東北ノ星ハ西へ
 游行シ南西ノ星ハ北へ游行シ此時ノ太陽ハ西ヨリ上ルモ
 ノナリ假令ハ人ノ座ヲニシテ一晝夜ヲ逾レハ地球ニ居人
 ハ戯場ノ廻リ舞臺ニ居如クナルモノナリ其理ハ心ヲ盡ス
 處ニアリ



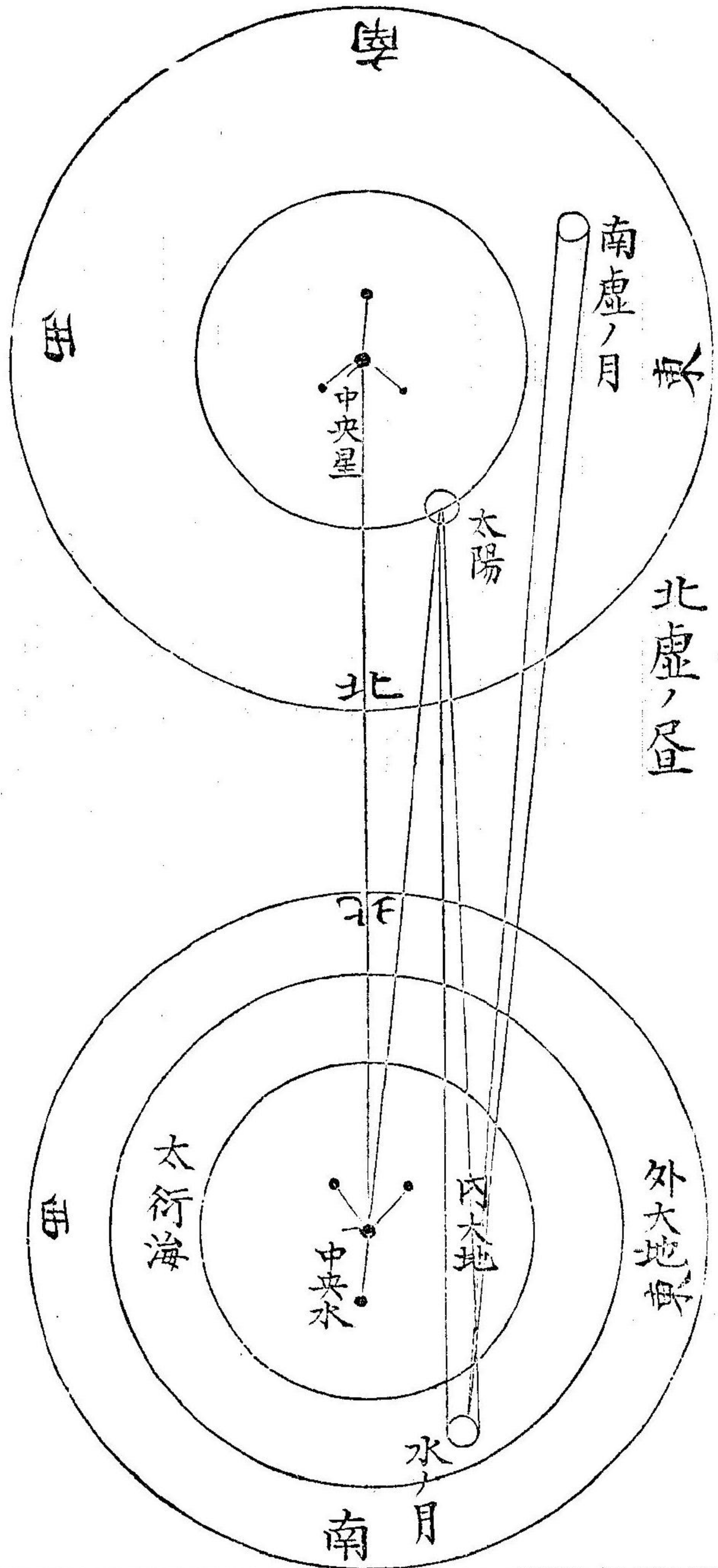
大虚圖

地球圖

星觀ノ辨

地球トシテ已レノ晝ヲ南ニ向ヒテ座ヲニシテ午后八時ヨ

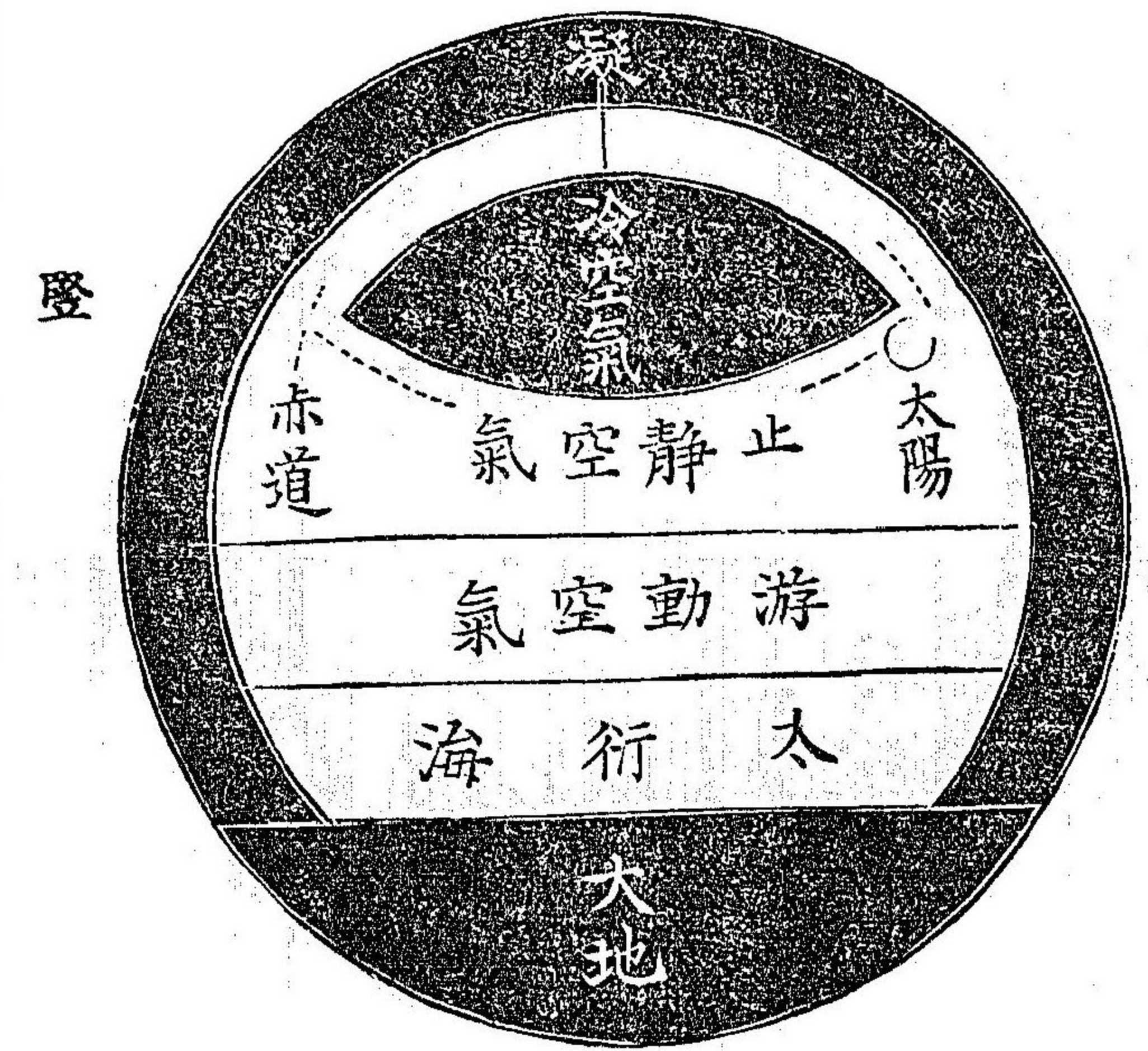
リ十時頃ハ東北ノ部ニアリ此時ノ人ハ東北虛ヲ觀テ北西
 ト西南ノ虛ヲ觀ル事アタハス此時北虛ノ星ハ東へ游行シ
 東虛ノ星ハ南へ游行シ十一時ヨリ午前一時頃ハ北ノ部ニ
 アリ此時北虛ノ星ハ東へ游行シ西南東ノ三虛ハ觀エ難シ
 亦西虛ノ星ハ己レノ上虛ニ來ル二時ヨリ四時頃ハ北西ノ
 部ニアリ此時西虛ノ星ハ己レノ上虛ニ來ル此時ハ南東北
 虛ハ觀エ難シ五時ヨリ七時頃ハ西ノ部ニアリ此時東南北
 ノ虛ハ觀エ難シ亦南虛ノ星ハ己レノ上虛ニ來ルモノナリ
 其纏直ハ推テ知ルベシ



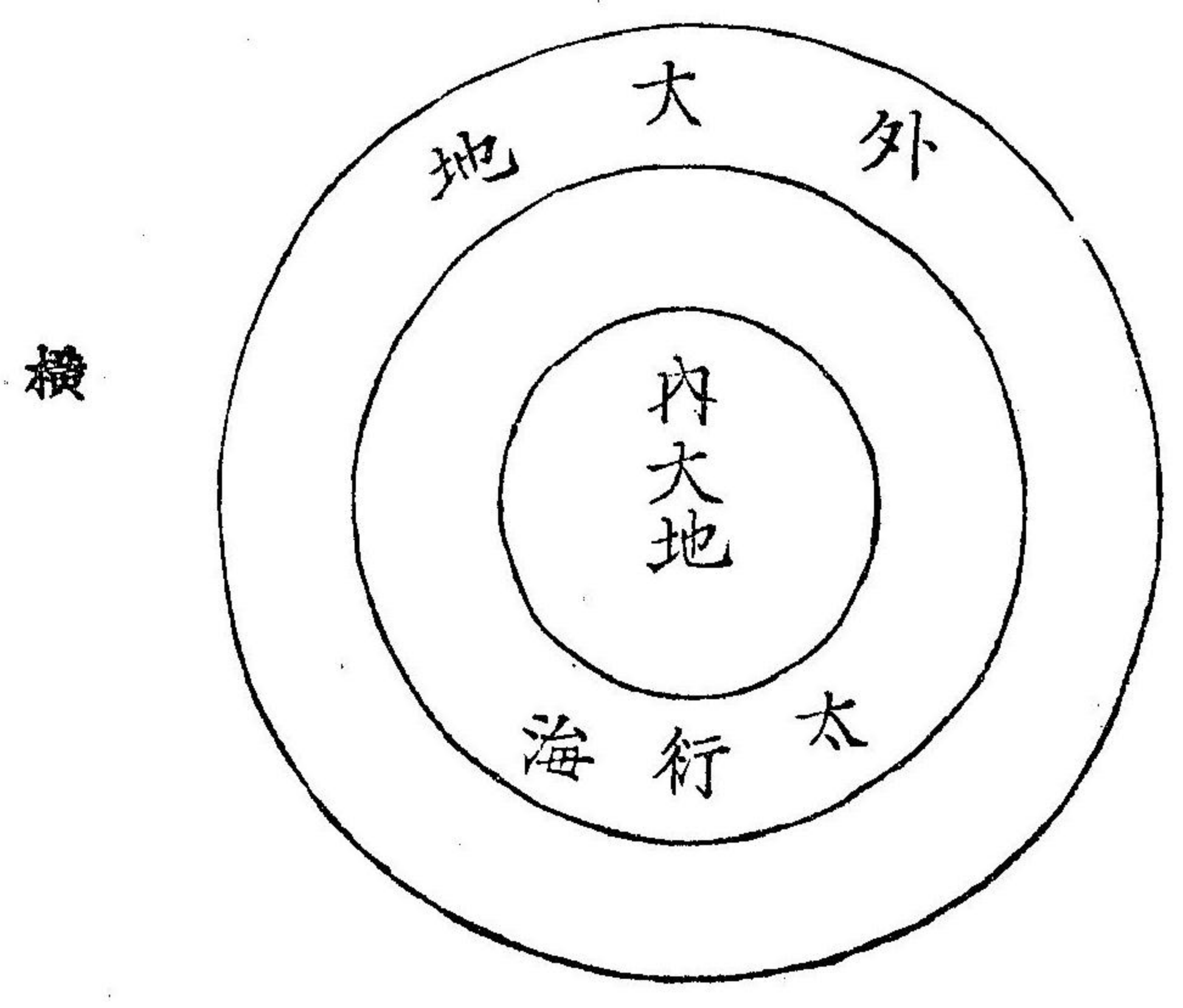
晝夜圖
南虛ノ夜

大地南面夜

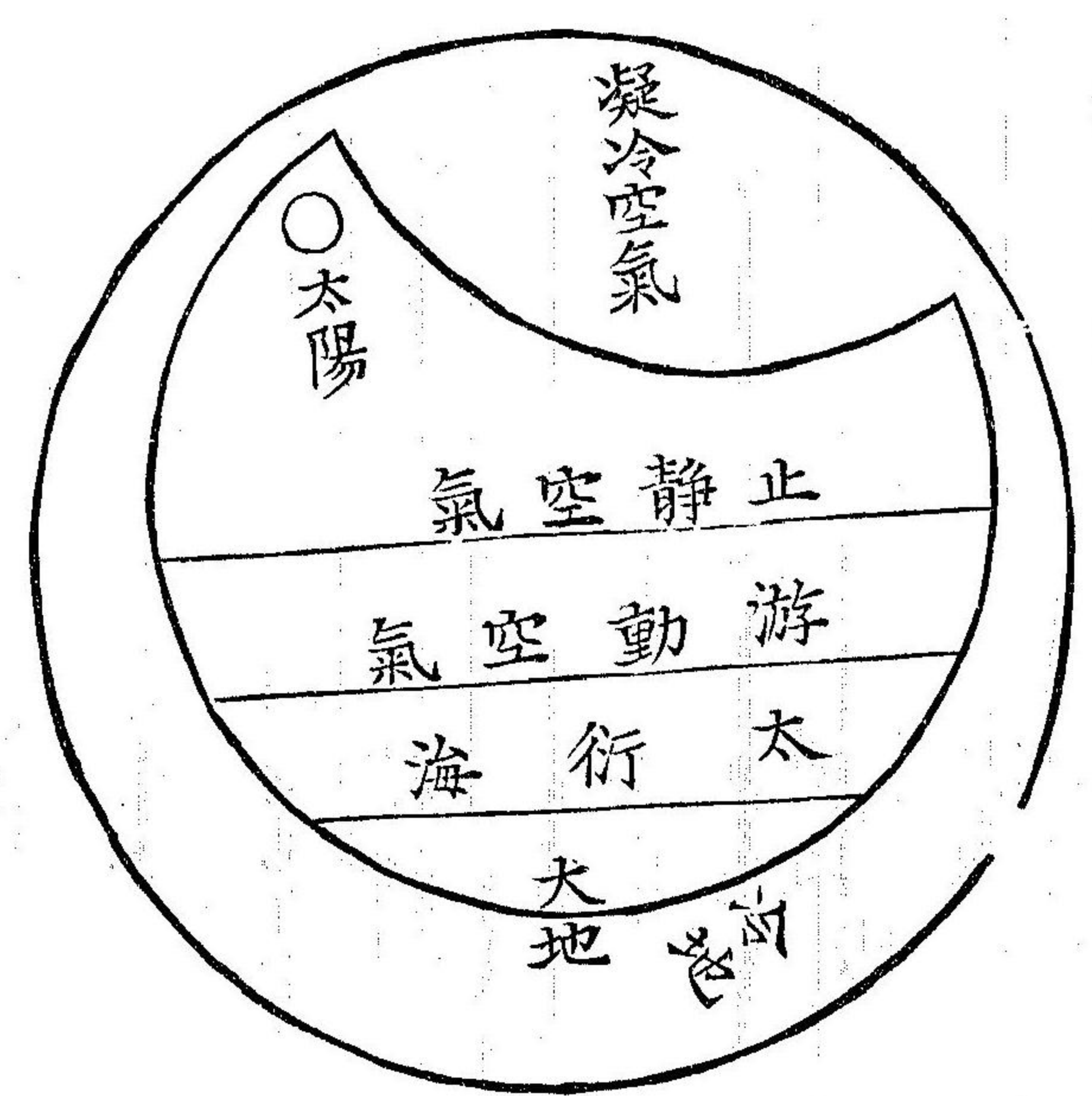
天地圖



大世界ノ圖



春分圖

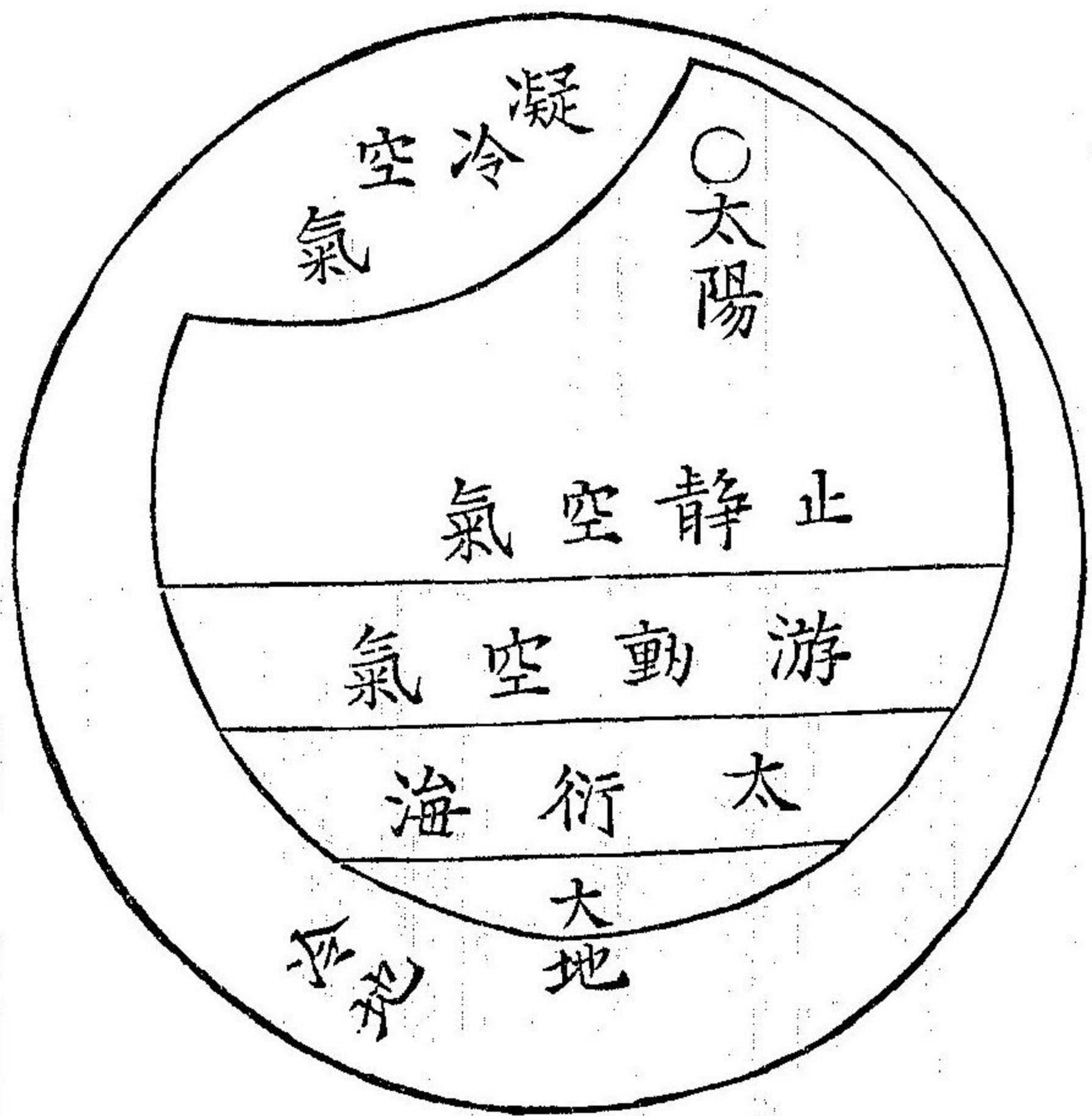


陽中央天ニ寄セ来リ陽氣充滿スルヲ以テナリ亦太陽底フ

春ハ南ト巽ニ在ルトシテ太陽ハ西ト坤ニ高フシテ中央天ニ寄リ来リ則チ夏ノ季亦凝冷空氣ハ東ト艮ニ退キ則チ冬ノ季北ト乾ニ秋ノ季南ト巽ニ春ノ季總テ春ハ日中ハ長シ亦土中ハ是ニ反シテ寒冷温暖ナナス亦太陽高フシテ夏ノ季ニ至ルト云フハ故ノ凝冷空氣北天ニ退キ太陽

シテ冬ノ季至ルト云ノハ凝冷空氣九十日ナ一季トシテ巡
廻シテ進退高底ヲナスユエナリ

夏分圖



夏ハ太陽南ト巽ニ高フシテ
中央天ニ寄セ来リ則テ夏ノ
季亦凝冷空氣ハ北ト乾ニ退
キ則テ冬ノ季東ト艮ニ春ノ
季西ト坤ニ秋ノ季亦夏ハ太
陽高フシテ日中ハ春ヨリ少
シ短シ是ハ凝冷空氣北ト乾
ニ退キ秋迄ニシテ西ト坤ニ
底キニ向フユエナリ亦土中

ハ是ニ反シテ南ト巽ニ寒冷アリ北ト乾ニ温暖ヲナス

秋分圖



秋ハ南ト巽ニ在ルトシテ太
陽ハ東ト艮ニ高フシテ中央
天ニ寄セ来リ則テ夏ノ季亦
凝冷空氣ハ西ト坤ニ退キ則
テ冬ノ季北ト乾ニ春ノ季南
ト巽ニ秋ノ季亦秋ハ春ノ季
候ヨリ暖カナルモノナリ此
時土中ハ東ト艮ニ寒冷ヲナ
シ西ト坤ニ温暖ヲナス四季
共ニ四方ニ巡リ亦秋ハ春ノ

季候ヨリ暖カナルト云フハ夏ノ窠ノ次ニ當ルユエニ夏ノ陽氣ノ次ノ窠ニ充滿スルヲ以テナリ

冬分圖

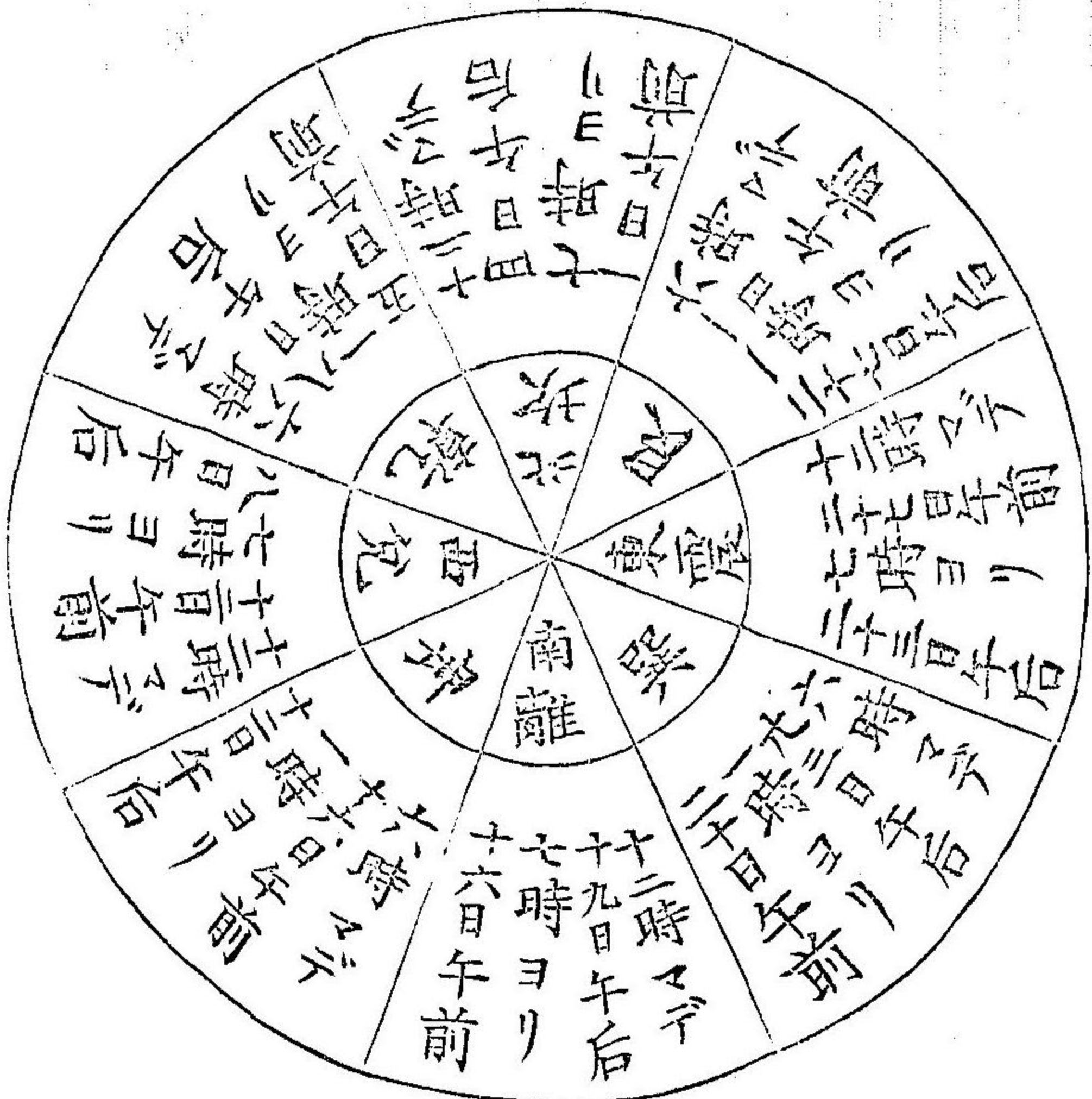


冬ハ南ト巽ニ在ルトシテ太陽ハ北ト乾ニ高フシテ中央天ニ寄セ来リ則チ夏ノ季亦凝冷空氣ハ南ト巽ニ退キ則チ冬ノ季此時土中ハ北ト乾ニ寒冷ナシ南ト巽ニ温暖チナス亦冬ハ寒冷チ暮ルト雖モ日中ハ秋ヨリ長シ是ハ太陽春ニ向フテ西ト坤ニ高

キニ向フヲ以テ太陽ヲ見ル時間長キユエナリ

潮汐ノ満干圖

太行海ノ潮汐ハ三十日ヲ經テ一巡トシ此時間七百廿時是ヲ八窠ニ賦課シテ一窠ノ時間九十時トス



潮汐ノ満干ノ辨

水ハ太陰ノ性ヨリシテ小陰トナリ此小陰ハ内大地ノ大外
 チ圍ヒ是ヲ太衍海ト稱エ此海中ノ水ハ毎ニ游動シテ三十
 日ヲ以テ一巡廻ヲナシ太陽ニ向フ事日毎ニシテ潮汐トナ
 リ満干ヲナスモノナリ此満干ヲスルト云フ理由ハ則チ陰
 陽交通スルヨリ起リ太陽ハ一晝夜ニシテ一巡ヲナシ亦太
 陽ハシリヘニカエラズ小陰ノ水ハ後ヘニカエル氣ヲ生シ
 是ハ陽氣ヲ慕フ事ヲ望ミ太陽ヲ迎ヘ前ニ進ミ亦太陽ト交
 合ヲシテ亦太陽ハ止リ居事ヲセス直チニ離ル是ヲ小陰ノ
 水ハシリベニ慕ヒ戻ル氣ヲ生シ然ルト雖トモ水ハ其游動
 ニ頓キユエニ太陽ニ遠ニ後レ途中ニ迷ヒテ懷キ兎角スル

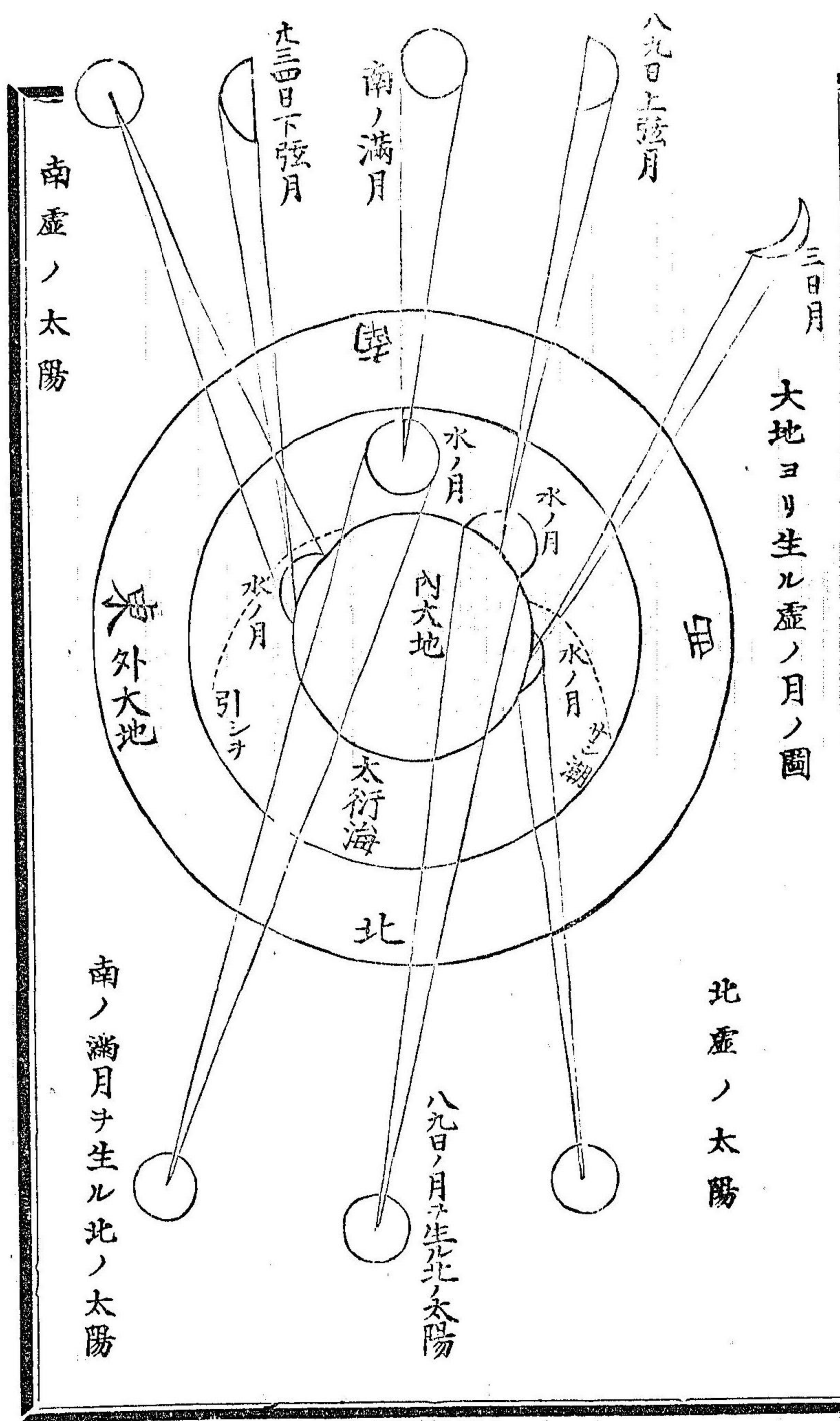
中ニ太陽再ヒ前ニ来ル是ヲ小陰ノ水ハ迎ヘニ前ニ進ミシ
 テ亦シリベニ戻リ戻リテハ亦前ニ進ミスルモノナリ火ハ
 蜂ノ飛ア如ク水ハ蛇ノ趨ル如クシテ早晚ノアルモノナリ
 亦上ノ圖ノ如ク潮汐ト満干ヲナス理ハ水ノ游動スル充滿
 ト減スルトニ在リ大凡太衍海ヲ八窠ニシテ是ヲ坎艮震巽
 離坤兌乾トシテ水ノ一巡三十日此時間七百廿時是ヲ八窠
 ニ賦課シテ一窠ノ時間九十時ト定メ坎ノ窠ヲ一日午前七
 時ヨリ四日午后十二時迄是ヲ充滿水トシテ亦坎ノ窠ヨリ
 前ハ乾兌坤ノ窠迄トシテ后口ハ艮震巽ノ窠迄后前三窠ヲ
 ハニシテ坎ノ本窠ヨリ大潮其次ヲ中潮亦其次ヲ小潮亦其
 次ヲ差シ潮トナシ本窠ヨリ后ノ汐其次第前ノ如シ是ヲ水

ノ尾ト云フ所謂引沙ノ事ナリ仮令ハ坎ノ本窠ノ時坤ノ窠
ハ差シ潮亦離ノ本窠ノ時艮ノ窠ハ差シ潮坎ノ窠ハ水ノ尾
各窠共ニ如是シテ卅日ヲ以テ艮ノ窠ニ果ル三十一日目ヲ
則テ原本坎ノ窠ニシテ一日トスルモノナリ

陰陽性氣ノ辨

水ハ小陰ニシテ潮汐トナリ亦雨雪霰霧トナリ色々變化ナ
ナスモノナリ人ノ水ト云フ時ハ甘シ味アリ亦潮ト云フ時
ハ鹹シ味アリ是ハ本性ハ水ナレ共川水池水井水トナリテ
海中ニ在ル時ハ水トハ云ハス然レ共一性水ナリ水ノ性氣
ハ鹵シ仮令ハ火ノ性氣ハ辛シ土ノ性氣ハ甘シ木ノ性氣ハ
苦シ金ノ性氣ハ酸シ各其本性ノ氣味在ルモノナリ亦水ハ

鹵シニ限ルモノナレ共海中ヨリ霧トナリ雲トナリ亦雨ト
ナリテ地上へ降ルモノユエニ川水池水井水トナリ亦川池
井ヨリ空中エ霧トナリ或上ルユエニ雨トナリ毎ニ如是ナ
ルユエニ土中ノ甘シ味ヲ奪取リ自ラ甘シ水トナルモノナ
リユエニ土中ニモ上面ニハ鹵シ水ヨリ脱シテ土ノ甘シ
ト水ノ鹵シト混交スルヲ以テ土ノ上面亦山水杯ニハ酸氣
ノアルモノナリ亦五味ヲ試ミルニハ金物木ノ葉木皮ノ汁
土火四種ヲ舌ニ載テ口ハヘテ知ル、モノナリ尤土ハ毎ニ
耕サバル處ノ黄色黑色ノ土ヲ深ク掘出シテ舌ニ載テ味ハ
ハハ甘露ノ如シ亦火ハ煙ヲ口ニ嚙ミテ辛シ忽チ麥辛子蕃
椒ノ如シ鹵ハ人ノ常ニ味ヒ嘗テ知ニアリ



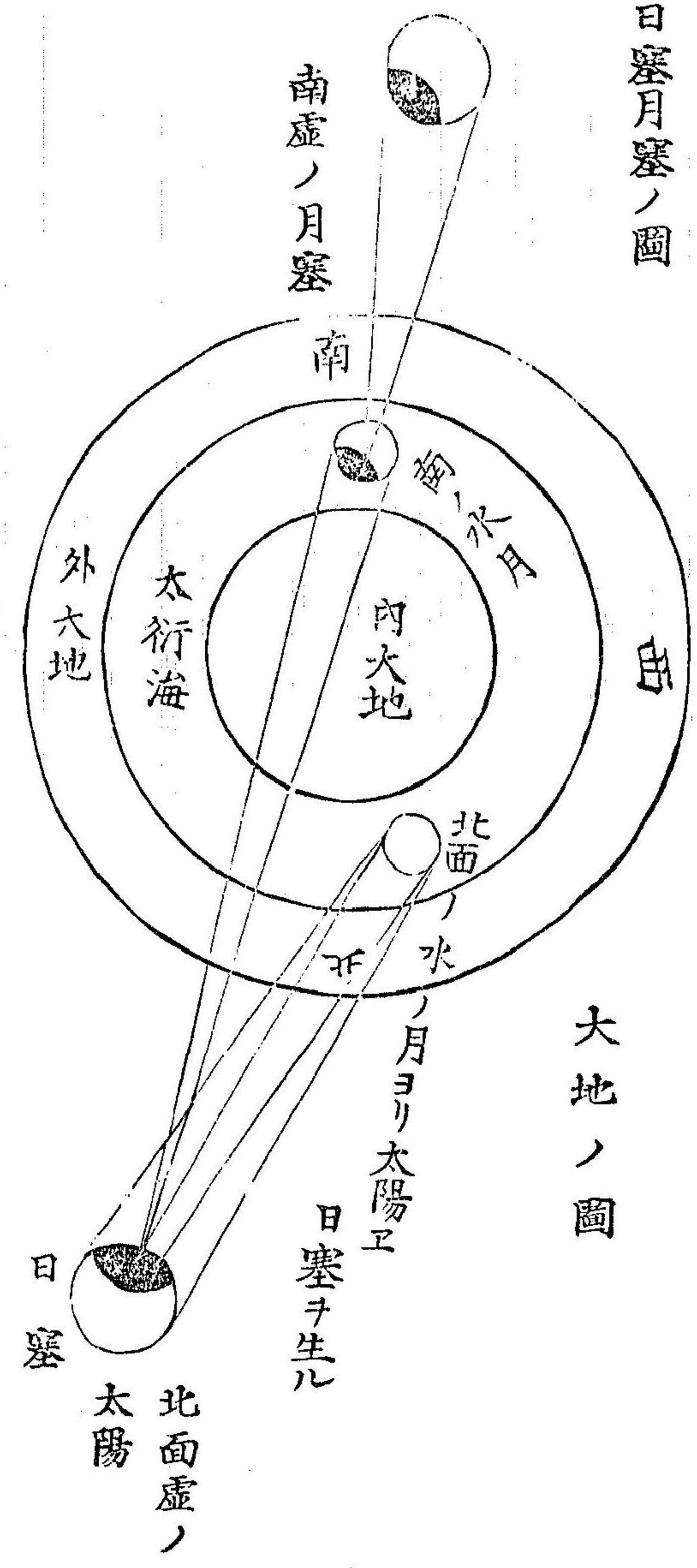
月輪ノ辨

三日月 弦月 共ニ其月——ニシテ直立トナリ少シ墜ムキ亦
 仰ムキ或ハ天ニ真向キトナリ其形チノ變化アリ上ノ圖ノ
 如シ月々ニシテ等シカラサルハ月ノ大小ト時候トニヨリ
 テ變化ナス理ハ時間ノ數ト空氣ノ上リ下リニヨリテ太衍
 海ノ水内大地ノ縁チ曲リテ太陽ノ光暉チ差ス其所ニヨリ
 テ則チ大虚へ移ルハ原ノ形チニ從ルモノナリ亦曆書ニモ
 毎月八日九日是チ上弦廿三日四日チ下弦ト云フ如シ亦三
 日月十五夜月廿三日ノ晝月亦廿日ノ朝月ノ欠チ西へ向ケ
 ルハ是則チ東南地ノ縁チ曲リナリニ光暉チサスユエニ西
 へ欠ケチ向ケルモノナリ亦三日月ノ仰ムキ亦ハ直立トナ

リシハ彼ノ坤ノ窠ヨリ少シ南ニサシ潮ノアル時ハ仰ムキ
亦ハ真受ニ天ニ向クモノナリ亦太陽ハ凝冷空氣ノ上リ下
リニ從リテサシ潮へ移ルユエニ月星共ニ四季ナシテ游行
スル時間ノ異リアリテ月ハ星ト游行ナ等シカラスシテ亦
其形チニ變化アリ上ノ圖ノ如シ潮汐ノ満干ニヨリテ其形
チニ満欠チ生ルモノナリ月星共ニ太陽ノ光暉ヲ太行海ノ
水へ移シ其影大虚ノ空氣ニ暉キ移ルモノナリユエニ三日
月十五夜月満月晝月ト變化チナス理アリ上ニ水ノサシ引
チ速ル如シ水ノ坎ノ本窠ニ在ル時ハ三窠目ハ坤ノ窠ハサ
シ潮此時已カ日本ニテ觀ル月ハ三日月トナリ十五夜月チ
満月ト云フハ離ノ窠ニ水ノ充満スルチ以テナリ南ハ則チ

満月トナリ東西南北共ニ各月ニ變化アリ日本地ニテハ廿
日ヨリ後チ後ノ月トシテ廿三日ノ晝月ハ早天ヨリ月アリ
其形チ七合位トシテ日中ニ月チ觀ル事未ダ南ノ部分ニ水
ノ尾残りテ引果サ、ルユエナリ三十一日目チ坎ノ窠ニ水
ノ充チ以テ日本地ハ三日月トナリ

日塞月塞ノ圖



大地ノ圖

日塞月塞ノ辨

日塞ノ説ハ孰レモ同シ解譯ニシテ是ハ必シモ太陽ハ月影

ナ以テ塞ギ其塞ギ七合ハ合ト區々ニシテ變化アリ一説ニ
 月塞ハ月ト太陽ノ間ニ地球ノ隔テ在リテ月ヲ照ス日光ヲ
 塞スルユエニ影ナスルト云フ説アリ月塞ナシテ日光ヲ地
 球ナ以テ月ニ隔テ塞スルモノナレハ其塞スル影ヲ觀ル事
 ナシ上ノ圖ノ如シ地ヲ以テ月影ヲ欠クハ三日月或ハ廿日
 ヨリ后ノ月ヲシテ地ヲ以テ月ノ影ヲ減スルモノナリ月塞
 ハ南虚ニ在ル時ハ北面ハ日中ニシテ日塞ナリ此日塞ノ影
 ナ南面ノ月ニ移ルユエニ則チ月塞トナルモノナリ亦月塞
 ナ地球ヲ以テ塞スルモノナレハ仮令ハ燈火ニ茶盆ヲ持テ
 塞スル時ハ或ハ五合塞スレハ殘五合ノ火ハ見エレ共塞ギ
 タル五合ノ火ヲ觀ル事能ハス亦地球トシテ光暉ヲ塞スル

時ハ枝ノ茶盃ヲ持テ燈火ヲ塞スル如シ現在ニ十五夜月ニ
月塞ノ在ルヲ觀ルベシ滿月ノ形ヲニ明ニ見ハレテ塞スル
影ハ畫キタル月ノ如クニ觀エルモノナリ是ハ北面ノ日光
ニ日塞在ルユエナリ南面ニ月塞アリテ北面ニ日塞在ルト
セ八月ハ兩面ニアルト云フ理由ハ仮令ハ細谷川へ添フテ
往返ヲスル時月影ノ水中ニ一輪アリテ幾里歩ム共虛ニ月
ノアル中ハ毎月ヲ觀ルナリ亦隣地ノ河川ニシテ並ビア
ル時則チ月ノ並ビアル如シ南面ニシテ其隔ニ大地ノアル
ユエニ上ノ圖ノ如シ日光ヨリ月星ヲ生ルモノナリ仮令ハ
日中ニ小キ桶ニ水ヲ溜家ノ前ニ並べ置ハ其桶毎ニ日光ノ
影ノキヲメキ家ノ中ニ桶ノ數程光暉ノ移ルヲ觀ルベシ亦

日中ニシテ星ノアルモノナレ共太陽ノ光暉烈シキユエニ
星ノ見エサルモノナリ星ハ大地ノ水影ニシテ大小アリ月
ノミハ内大地ノ大外ヲシテ太衍海ノ水エ太陽ノ光暉ヲ移
スユエニ其形ヲ甚ク大イナリ

曰日蝕月蝕共此蝕ヲ用ユ此ハ虫クヒト云フ意ニシテ
日月ノ暉ヲ防ケ在ルヲ以テナリ草木杯へ虫ノ客ト
云フ理ナル乎塞ノ字ハ總テ蓋ヲスルト云フ意ニシ
テ其形ヲチチフサク理ニヨリテ塞ノ字可ナリ

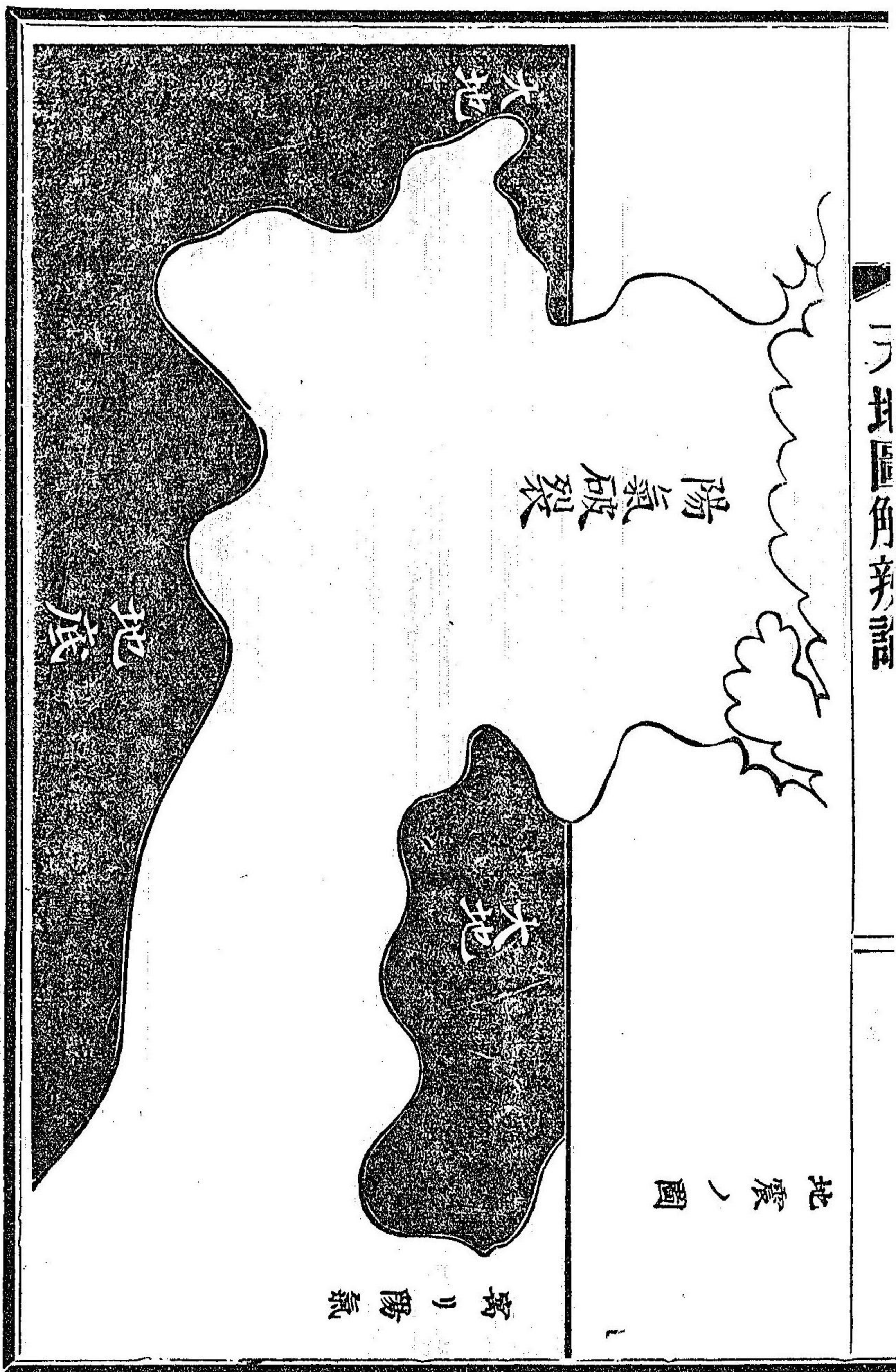
風ノ辨

風ハ劇キモノニシテ其形ヲノ見エサルモノナリ風ノ起リ
ハ陰陽互ニ合氣ヲ生シ火ハ水ヲ嘗ルノ氣アリ水ハ火ヲ慕

フノ氣アリユエニ上ニ述ル如シ水火互ニ合交ヲ生シ終ニ
 ハ大風ヲ起スモノナリ大虚ハ凝冷空氣ニ塞リ地中ハ水ニ
 閉リ空中ハ窟穴ノ如シユエニ陰陽ノ氣土中ニ入時空中ノ
 陰氣土中ハカエリヲ望ミ平和ニカエルトナラハサシタル
 風ノナキモノナレ共余リ過劇ニ陰氣土中ニカエルユエニ
 陽氣是カ爲ニ土中ヲ脱ルノ猛氣空中ニ吹出スモノナリ唯
 水火ノ争ヒヨリレテ空中ニ出ル氣ヲ風トナリユエニ二三
 月ハ大風ヲ生ルモノナリナントナレハ二三月ハ土中ノ寓
 リ陽氣自ラ空中ニ展ル氣アリ亦八月ハ空中ノ陽氣自ラ土
 中ニ寓リヲ求ントシテ土中ヲ暖メル者ナリ脱スルトカエ
 ルトノ両ヲヨリシテ風ヲ起ス理アリ陰陽ハ毎ニ動搖ヲ生

レ仮令ハ人ノ吸息ヲ劇シクスル時ハ亦吸息ヲ劇シクスル
 道理ナリ水ハ陰ノ性ニシテ土火ヲ交合スルノ氣アリ水ヨ
 リ空氣ヲ動搖スル原本タリ風ハ水火ヨリ生ルモノナリ

地震ノ圖



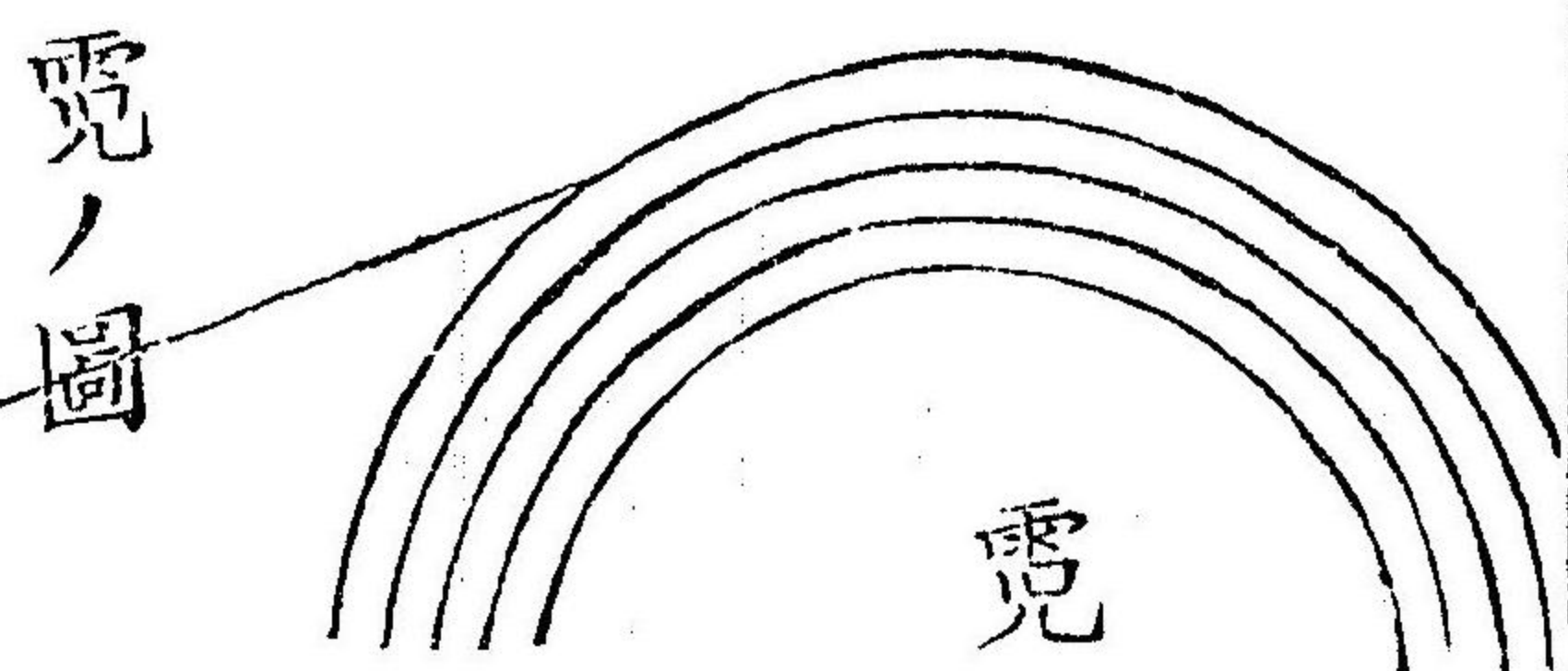
地震ノ辨

地震ハ地ヲ震動スルモノニシテ是等ノ如キハ人ノ究理ニ
 異論ノナキモノナレ共其大略ヲ述レハ風ノ起リト等シ秋
 ヨリ冬ニ至リテ多分アリ春夏ハ余リナキモノナリ秋初メ
 ハ陽氣漸トシテ土中ニ入モノナレハ亦土中ニモ兩説アリ
 秋初メヨリ冬分ハ土中ニ陽氣寓リテ土底深底ハ陽氣未タ
 充満セサルユエニ陽氣土中ニ入テ大底ヨリ冷氣慕ヒ上ル
 氣アリ此時陰陽ノ合氣土中ニシテ猛氣動搖シ終ハニ破裂
 シテ地底ヨリ青キ土砂ヲ吹出ル事アリ仮令ハ人ノ體ニ熱
 氣寓リテ腫物トナル事アリ後々ハ皮内破裂シテ終ニハ膿
 ノ潰ル如シ人ハ已レノ全體ニシテ其前日ニ知レルモノナ

リ亦大地ハ其前ニ迫ホスモノナレ共大地ノ事ハ人ノ知ル
處ニアラス則チ陰陽ノ不順ヨリ起ルモノナリ

雷電ノ辨

雷電ハ水火ノ性ニシテ夏秋ニアルモノナリ或ハ夕立雲ノ
凶ニ起リテ陽火其雲ニ烈シクサシ込ミ亦雲ハ此火ヲ慕ヒ
夾メル氣アリユエニ其雲破裂シテ中ヨリ火ヲ發ルモノナ
リ仮令ハ酒樽杯エ熱湯ヲ入劇シク振り動カセハ蓋ノ張破
レル事アリ雷電モ如是雲ノ火ヲ卷キ夾メテ烈火其中ヨリ
發ル是ヲ電ト云フ音ノスルヲ雷ト云フ其暉キヲ發シテ後
ニ音ノスルモノナリ鉄砲玉ノ的ニ中リテ後ニ音ノアル道
理ナリ



霓ノ辨

霓ハ總テ晚日ニ暉キ東ノ方ニ顯レ日中ニ余
リナキモノナリ太陽ノ晚日ニ墜キ空中ニ雨
氣ヲ生シテ仮令ハ春ノ霧ノ如ク曇天シテ陽
氣ヲ受亦遙カ隔テ、前ノ如ク東ニ曇天シ是

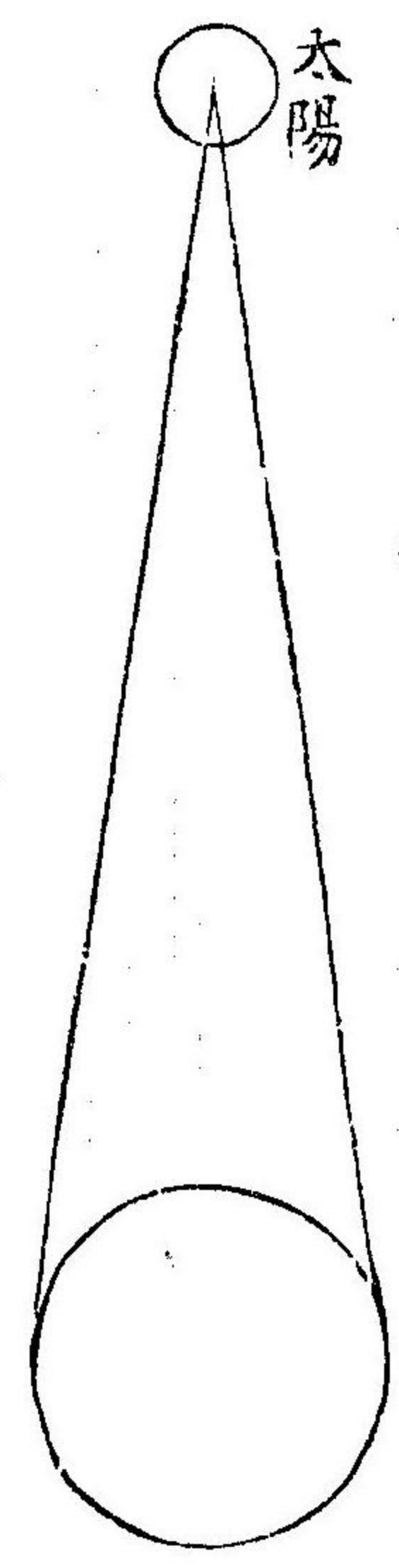
ニ晚日ヲ受ルユエニ最初受ル雲ハ
赤色ヲナシ次ハ黄色亦次ハ青色亦
次ハ紫色ヲナシ光暉ノ衰エルニ從
ヒ其色ノ變化アリユエニ霓ノ立テ
後ニ雨雲ヲ生ルモノナリ一説ニ雨
電風霓ト云フハ霓ノ早ク消ルハ風

霓ノ圖

晚日

ナリ遅ク消ルハ雨ナリト云フハ雲ノ早ク消ルハ風ノ起リ
アルヲ以テナリ

御暈ノ圖



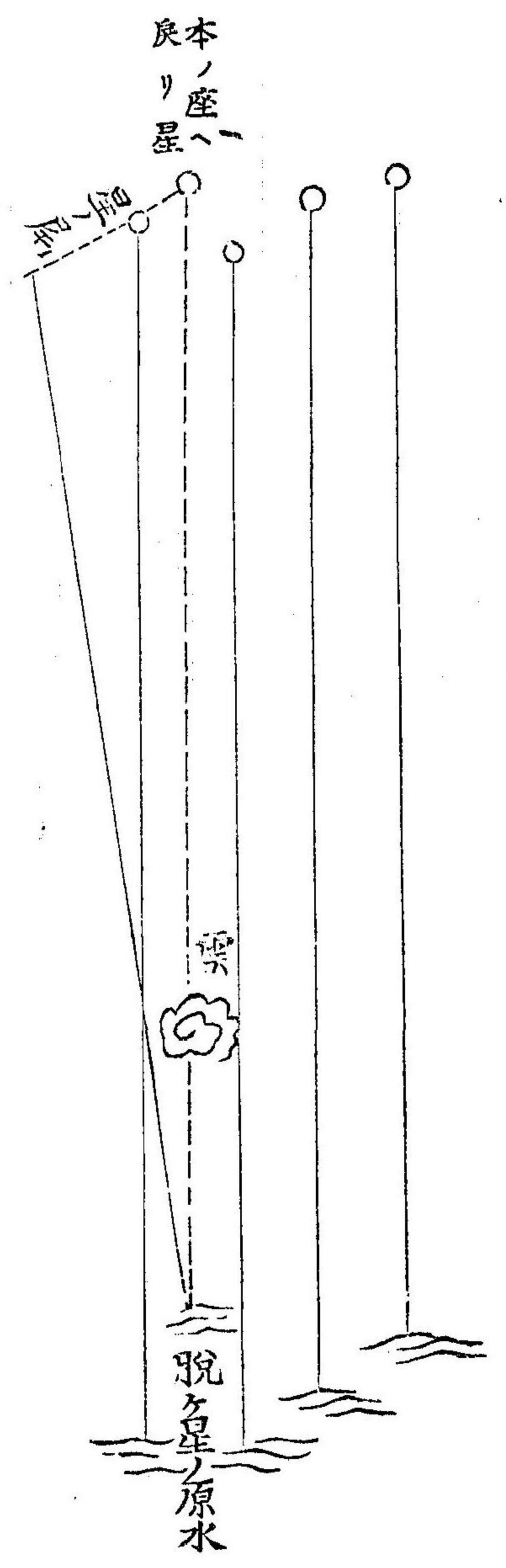
太陽御暈

御暈ノ辨

日月共ニ御暈ト云フ在リ俗ニ是ヲ冠ル御笠ノ如ク思エル
ハ日月ヨリ上虚ニ在ルト思エルヲ以テナリ御暈ハ日月ノ
直下ニシテ霧ノ如クナル薄雲ノ動カサルヲ以テ是ニ日月
ノ光輝ヲ受テ御暈トナリ日月ニ比レハ凡太陽ノ旦リ二尺

位トシテ御暈ハ二百倍ノ大キサアリ亦竟ト云フ時ハ殆ト
壹億萬倍ノ大キサアリ此直經凡三萬里トナル此周圍ハ九
萬四千八百里トナル太陽ハ竟ノ輪ヲ以テ分量ヲ積リタレ
ハ固キニ舉テ云フモノニアラス

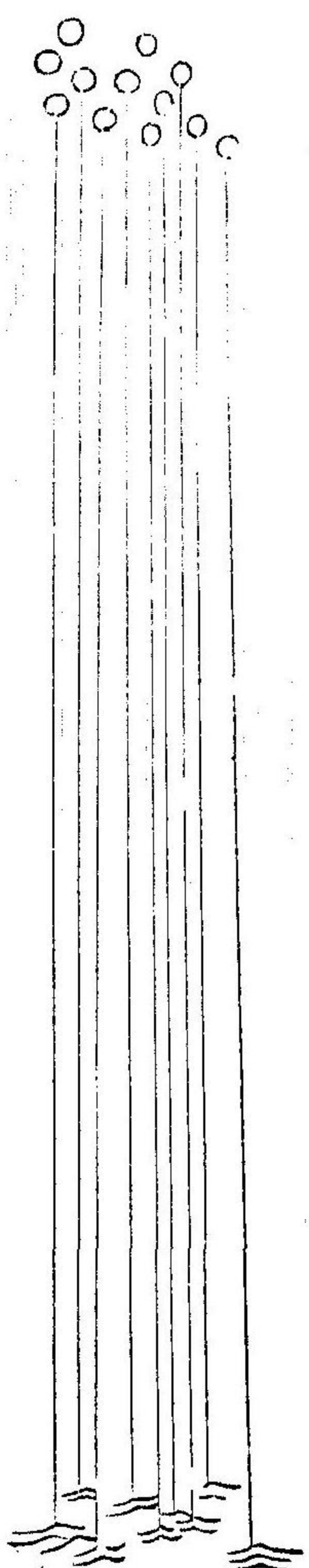
辰星圖



辰星ノ辨

上ノ圖ノ如シ流星亦脫星ト云フハ長キ尾ヲ曳キ其形ヲ脫ケナリニシテ消ル如クニナル星ナリ他ノ星ト等シキモノナレ共此星ハ本性ハ海水ナレ共其水工雲ノ覆ヒ罹リテ光暉ヲ隔テシモノユエニ雲ノ退キ初メヨリ空氣ニ暉キヲ放テ尾ヲ曳ク如クニシテ原ヘ戻ルユエニ人ノ觀ル時ハ行止ル處ナキ如ク觀エルモノナリ亦西ヘ走り南エ走り行衛等シカラサルハ風ノ吹方ニヨリテナリ世ニ此星ヲ脫ケ星ト云フハ僻言ナリ辰星ト云フヘキ

彗星ノ圖



大地ノ洪水

彗星ノ辨

彗星ハ掃除ヲセル彗ノ如クノ形ヲニシテ何日トナキ見エ
ル星ニテ此星ノ上ル地方ハ夏ニシテ則チ夏雨ノ多キヲ以
テ終ニハ其地方ノ水害アリテ或ハ堤防ノ破レ亦ハ窪所ニ
水ヲ溜湖水ノ如クナルユエニ彗星ノ如シ其水ノ湛ヘ溢レ
テ此水ノ早魃及ヒ亦ハ水ノ治リ防ク迄ハ或ハ百日二百日
間モアル星ナリ人ノ一生ニハ壹二度位アリテ終ニハ十介

年間ニシテ二度位モアリ亦四五十今年間壹度位トシ其度ノ定リナキハ辰星彗星燐星ナリ其他ノ星ハ游行スルニ定リアリテ一晝夜ナ一巡スルモノナリ亦大地ヲ圖ニハ人ノ觀サル處ヲ述ルモノナレハ大地ノ外法ニ廣キ事水ノ多キ事ヲ以テ大地ニ至レハ大地相應ノ洪水在ル事ヲ察スヘシ



原水へ暴風ヲ起シ
水波ヲ動搖ス

燐星ノ辨

燐星ハ上ノ圖ノ如ク燦ス火ノ如ク動キ燿クモノニシテ其形ヲ甚タ大キニ見エル星ナリ其地方ノ原水エ暴風ヲ生シ

テ在ルユエニ星ノ動キ燿クハ原水へ大濤ヲ起シ在レハナリユエニ此星ハ六七七日ニシテ風ノ治リテ波消ル時ハ常ノ星トナルモノナリ

氣息ノ辨

人ハ一個ノ小天地ト雖モ人ノミノ小天地ニセス萬物悉ク一個ノ小天地ナリ總テ氣形ノモノハ息ノ吸噴ヲスルヲ人ノ眼ニ見エテ木火土金水ハ天地ノ性體ニシテ息ノ吸噴ハ風雨ナリ此二種ハ列ニ空中ニ在ルモノ、如ク思エルハ天地ノ性體ヲ詳カナラサルヲ以テナリ天地ノ中間ニ於テ息ヲ吸噴スル事ナキ時ハ土中ハ水ニ閉リ大虚ハ凝冷空氣ニ塞リ仮令ハ陶リノ口ヲ塞ギタル如キノモノナレ共是ヲ息

ノ融通スルハ地ハ水ヲ吸噴シ大虚ハ凝冷空氣ノ動搖スル
ヲ以テ天地ノ中間ヲシテ風トナリ息ヲ吸噴スル事人ノ體
中ノ如シ是ヲ地球トシテ云ハ、仮令ハ十万里有ルヲ一晝
夜ニシテ巡轉スル時ハ此地球ニシテ息ヲ吸噴スル事アタ
ハス總テ万物ノ刷シキ動搖スル時ハ人ノ高キ處ヨリ底キ
處へ飛下ルカ如シ其息ヲ止メルモノナリ亦人ヲシテ禽獸
魚虫ニ至ル迄已レト反ト力ヲ競争時ハ已レノ息ヲ止メテ
居モノナリ地球トセハ如是刷シク巡轉スルヲ以テ地中ヨ
リ其氣ヲ吸噴スル事アタハスユエニ天地ハ人ノ體中ノ如
ク常ハ穩カナリ亦氣形ノモノ、息ヲスルモ天地ノ氣息ニ
等シ人ノ眼ニ見エサル小虫ニ至ル迄息ヲスル事大獸ト同

シ万物共ニ息ヲスル事時計ノ如シ脈道ノ其度同シモノナ
リ天地ノ中間ニシテ風雨ノナキ時ハ万物ノ死タル如シ息
ノ融通アルコトナシユエニ天地ノ氣息ハ風雨ナリ草木ノ
氣ハ芽葉ヲ延ル金石ノ氣ハ潤ヲ増減シ除ハ推シテ知ルヘ
シ

降雨ノ辨

降雨ハ土中ノ寓リ陽氣空中ニ總ニカヘル時ハ日和ナリ亦
土中ノ寓リ陽氣何日ト云フ事ナキ引續キテカヘル時ハ空
中ニシテ晴互リ此時陽氣大虚へ立上リ直ニ返ルモノナリ
亦是ヲ空中ニシテ水氣集リテ陽氣是カ爲ニ地上ヲ離レサ
ルニヨリテ土中ノ水氣空中ニ陽力ヲ以テ引上ルユエニ水

氣ハ雲トナリ空途ヲ游動シテ終ニハ雨トナルモノナリ亦
 春雨五月雨秋雨トシテ毎モ三度ハ降雨ノ多キモノナリ二
 月末ヨリ三月ニ至リテハ土中ノ寓リ陽氣自ラ大虚ヘ返ヘ
 ル時ニシテ陰氣ハ空中ニ在ルヲ以テ陽氣ヲ空中ニ止メテ
 雨トナシ亦五月ハ陽氣土中ヲ離ル、ノ終ニシテ返リ陽氣
 緩ヤカナルヲ以テ返ル陰氣ハ大虚ヨリ押シ壓シ中途ノ水
 氣ハ雨トナリ亦六月七月ハ土中ノ冷氣ニ絀マレ水氣ヲ噴
 吐スルノ勢力ナシ空中ハ陽氣烈シキユエニ水氣ノ集リ難
 シ亦八月ハ陽氣土中ニ寓ントシテ土中ヲ暖メナスユエニ
 水氣噴吐シテ空途ニ上ル時大虚ヨリハ陽氣下リ来テ水氣
 ナ空中ニ止メルユエニ八月ハ降雨ノ多キ時ナリニ三月ハ

是ニ反シテ陽氣土中ヲ脱ルヲ以テ水氣空中ニ止メル事ハ
 月ト同シ亦寒暑共ニ天雨ノ時ハ地上ヲ焔氣スルモノナリ
 亦寒中ニシテ水氣空中ニ上ルハ則チニ八月ト同シ理ニシ
 テ冬分ハ別シテ土中ノ寓リ陽氣烈シキユエニ水氣ヲ空中
 エ上ホス事甚ダシユエニ寒冷天ハ一方ニシテ外三方天ハ
 春夏秋ナルヲ以テ陰氣寒冷天ニ押シ寄セテ雪ト也

明治二十四年一月廿四日印刷
明治二十四年一月廿五日出版

正價拾五錢

發行者無著作

岡山縣備中國邊口郡船總村大字水江六十二番邸
平 萩 原 四 郎

岡山縣岡山市大字西中山下三十二番邸向陽社印刷部
平 江 口 石 太 郎

印 刷 者

版權登錄

發 賣 所

- 備中國窪屋郡倉敷村 百七十一番邸 西 澤 六 藏
- 備前國岡山市上ノ町 六十一番邸 細 謹 舍
- 大坂市東區備後町 四丁目卅一番屋敷 梅 原 龜 七
- 大坂市東區心齋橋筋 安堂寺町四丁目二百 青 木 恒 三 郎
- 四番屋敷

